

31 2 3 4 5 6 7 8 9

方言録音資料シリーズ—3

鹿児島県川辺郡笠沙町片浦方言

上 村 孝 二 編

1 9 6 8

## も く じ

|                  |    |
|------------------|----|
| 収録地点とその方言について    | 2  |
| 表記について           | 4  |
| 本文               |    |
| 1. 火事の思い出        | 5  |
| 2. 運動会に参加をすすめる   | 13 |
| 3. 結婚式の今昔        | 22 |
| 4. 登だんご          | 36 |
| 5. 八百屋さんと一婦人との対話 | 42 |
| 6. 祝儀：孫の誕生をよろこぶ  | 58 |
| 7. 地名伝説          | 66 |
| 8. 胡主の奥さんと漁夫     | 73 |
| 注                | 83 |

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者 大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話しことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、鹿児島大学教授 上村孝二 が担当した。

## 収録地点とその方言について

### 1. 収録地点名：鹿児島県川辺郡笠沙町片浦

### 2. 収録地点の概観

野間半島の良港の漁村である。戸数280戸で大部分の住居は山の傾斜面に密集する。耕地水田乏しいために農産物に見るべきものはない。部落の生活は漁業（近海）に依存しているが、近時漁獲が少なく、さびれた感じ。交通は南薩鉄道の加世田駅と野間池との間に戦前からバスの便があり、最近では鹿児島市直行のバスも運行されている。買物は加世田市にも行くが、商店の仕入れなどは鹿児島市へ出かける。枕崎方面へも鉄道を利用して買物にでかける。漁船は枕崎方面とも往來する。小中学校はこの部落にはなく手前の小瀬にある。役場もそう。

### 3. 収録した方言の特色

野間半島（大瀬町・笠沙町から成る）方言は薩州一般から見ると、やや変わっている。むしろ私の所謂半島南端方言（枕崎・鍋立・開聞・喜入など）に属する。今回の現地調査（話手の言葉を中心に）によって鹿児島地方には聞かれない特徴をあげて見る。

音韻……①語中・語尾のk・tの有声化は微弱ながら残っている。老年にあるが、個人差もある。②鹿児島地方では細い母音が原則的だが、この方言では長音化の例がゆかりある。多くは強弱形と思つてよいようだ。③アウセントは重起伏調なのが戦前の私の調査でわかっていて、前に鹿児島式化しているようだ。若い婦人（話手）には枕崎式ア（高低が鹿児島と逆な上に重起伏式）がゆかりきかれたが、この人の発音について疑いをいだけ一座の道中ではいなかったから、枕崎式アと鹿児島式アに基づく重起伏調とがもと混在していたのか。なお要研究。④ガ行鼻音は予期に反してきかれなかった。

付：四つ仮名の区別は鹿児島中心部では行なわれないが、片浦方言では老人の坂上氏（男）だけはよく区別していた。

文法……①セツカラ（あべきだ）、イクカク（行くべきだ）のような南端方言的なもの。②終助詞（質問）に<sup>ナ</sup>と<sup>カ</sup>がある。③「ねえ」を「ニー」というのが、児童にきかれた。（南端方言的）

語彙……バカ（麦粒腫）、イヤ（常に）、ボンナ（かほちち）、アツク（片づける）、スマン（いけない）、マメクジ（蝸牛）、子ヲモツ（出産する）、メアワケ（節量の配分）カチ（魚群） マズ（日没前） アナイ（浅瀬）以上4つは漁村俗案。

### 4. 地点選定の理由

自由会話の中に薩州半島南端方言的なものがどれほどあらわれるか、又どれくらい鹿児島語化しているか、などを知りたいと思った。

表 記 に つ い て

(指定の字母以外に使用した字母,および使用した補助記号)

特 に な し

- 念を押す意の終助詞 *na, nai* は前文と雜して表記した。  
理由: 次のような係末の *na* と區別するためである。  
*ika nna* (行かぬれば)  
*ikutokana* (行くのかね), *kanai* は一語  
*ikuna* (行くのですか)
- 念を押す意の *o, o: mo* の *na, na:* に準じて表記した。但し, *gao* のように *ga* などと密着したものは離さない。
- 断定の意の *zja, zjansu, zjansa, ygoansu, gozansu* なども自立語的なので前文と切り離して表記した。
- 階級方言の *goansu* の類は標準語のゴザイマスより丁寧度が低いので「です, であります」などと訳した。これを「ございます」と訳したのは「ありがとうございます」の例だけ。

1. 火 事 の 思 い 出

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠砂町片浜  
金宮正(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居 住 歴)  
H 林 達 郎 男 大正6年生 商賣 0~13才在郷 14~18鹿児島市(旧  
船中学)19~21在郷 21~29鹿本市  
(兵役)30~現在 在郷  
Y 山中 房 子 女 〃 12年生 農 業 0~16才在郷 17~21神戸市 22~  
現在 在郷

解説: 歌前この即落でおこった大火のことを回想し, その恐怖について語る。

H a n n a g a q c u i a t a j a o m a n s a e i q k a i k o : k i k o k a i -  
あのね ほんとに 私は あなたに 一回 こう きこうかい

c i o m o o i k o q g a a q t a t a d o : n a n : k o k o n h u t o k a  
と 思っ て い る こ と が あ る の だ が, あの こ こ に '大 き な'

k w a h i g a a q t a i n a :  
火事が あった ね。

Y h a i  
はい。

H a j a d o q k a r a i k e n a h u i s i t e d e t a j a q t a t o k a o  
あれは どこから どんな 風に して 出たの でしたか。

Y a h i k o n h a r a o t e r a n s o b a n o  
あそここの はら お寺の そばの ね。

H h a : h a : h a :  
はあ, はあ, はあ。

Y a h i k o n i a n o : o i n e b a s a n n o o j a s i t a d o g a h a r a n a :  
あそこには お稲葉さんが おられたろうが はら ね。

H a o r a q t a g a o r a q t a g a  
あ, おられたよ, おられたよ。

Y hai ahikon iekara detatandon o:  
はい あそこの 家から 出たんですが ね。

H hun  
うん。

Y de ano kinpenwa hara moemositatan don o: ima  
で あの 近辺は ほぼ 燃えましたが ね。 今

saisjo nd:  
最初 ね。

H hai hai  
はい。 はい。

Y sono ka<sup>1)</sup> higa hora hidamani naqte an hara  
その 冊 火が ほぼ、 火玉に なって あの ほぼ

ahikose: tonmositade sakame<sup>2)</sup> sakase:  
あそこへ 飛びましたので 扉面(の) 扉の方へ。

H so:na  
そうかい。

Y hai  
はい。

H ataja na: cjo:do son toka omaja<sup>3)</sup> heitai de:  
私は ね。 ちょうど その 時は あなた、 兵隊で

to:kjon na eno gaqkoi oqtajo wage:kara oma-  
東京の ね。 あの 学校に いたの上。 自宅から あなた

ja kataura kwazida zen'sjo:su sinruimo mina  
た。 「片断 火事だ 金銭す 種類も みな

jaketa cjute denpoga kita mon jaqde na:  
やけた」 といって 電報が 来た もの だから ね。

Y hai  
はい。

H hiqtamagaqte omaja ma: iqi: cjutaicjon  
びっくりして あなた まあ すぐ 中隊長の

tokoi itate kju:ka:negaio siq morote na:  
所に 行って 休暇願いを して もらって ね。

Y hai  
はい。

H ma: sju:senmae ma imakara kangura sa sju:-  
まあ 終戦前、 まあ 今から 考えれば ね。 終

senmae jaqtatagdonkaran  
戦前 だったんだけど。

Y hai  
はい。

H sentomo atainanda zjo:kjo:wa sitannaqataq-  
そんなのも 私なんか、 状況は 知らなかったん

don na iqki kju:kao moreagete na:  
だが ね。 すぐ 休暇を いただいで ね。

Y hai  
はい。

H sohite to:kjo:ka(n)a modoo kitataqcio  
そして 東京から 戻って 来たんですよ。

Y e:  
ええ。

H hosite modoo kitatoga koke citatoga cjo:do  
そして 戻って 来たのが、 ここへ 着いたのが ちょうど

ban jaqta mon jaqde saqpai zjo:kjo:wa waka-  
晩 だった もの だから、 さっぱり 状況は わか

rantaqde sa:  
らないのなもの ね。

Y hai  
はい。

H hosite modoo mitaja omaja waigen-sja kur,an  
そして 戻って 見たら あなた、 自分の家の人々は 嵐の

nake bosocqi  
中に ぼんやりと、

Y hai  
はい。

H oqkahanto omaja: otoqcia<sup>N</sup>no omaja: suwaqcio-  
お母さんと あなた、 お父さんが あなた、 坐ってお

raqtaqde na: hoide mo: ban<sup>N</sup>no koq jareja wa-  
られるんで ね。 それで もう 晩の こと だから わ

karantaqde mo sonmama'e: ironna kocu ma ka-  
からないので、 もう そのまま いろんな ことを まあ 語

taqte neta kocja netataqdon na:  
って 察た ことは 察たんだが ね。

Y hai  
はい。

H akuihija omaja okiqte mits tokoiga waigen<sup>N</sup>  
翌日は あなた、 起きて 見た ところが、 自分の

ija: nahi o: an hutoka waigen eno omaja ja-  
家は 無し ね あの 大きい 自分の 家の あなた、 星

siqga gaqcui komankamo komankatsqde sora na:  
歌が とても 小さいも 小さいのだから それは わ。<sup>8)</sup>

Y hai  
はい。

H nda eno ato cjuwa ken<sup>N</sup> mo<sup>N</sup> zisqdeka:i cute  
おや、 家の 誰と いまば こんなもの だろうかと 言って、

ko: site mireja omaja nanzjai kstauran<sup>N</sup> ewa  
こう して 見れば あなた、 何にも 片葡の 家は

nakataqde sora  
無いんだもの それは。

Y hai  
はい。

H ma a<sup>gen</sup> tamagaqta kocja nakaqta ataja omai-  
あんな 驚いた ことは なかった 私は。 あなた

taqmo tamagai jaqtarodai na: honnokokote:  
あなたも びっくり なさったろう ね、 ほんとに。

Y an hara rjo:ho: ma: hutatokoikara ko himo<sup>9)</sup>  
あの ほう 両方 まあ ふたところから こう

higa na:  
火が ね、

H e: hun  
ええ、 うん。

Y himotoga jaqta goto naqtato goande hara  
火元が だった ように なったの ですから ほう。

H N: ho(s)i te ki: te mitaja:  
うん、 そして 聞いて 見たら、<sup>10)</sup>

Y hidaman naqte tonde itste o:  
火玉に なって 飛んで 行って ね。

H o:  
おお。

Y sokon iekara mata konda sitase: ko: moete  
そのの 家から また 今度は 下の方へ こう 燃えて

kimasitadesjo<sup>11)</sup>  
来ましたでしょう

H e:  
ええ。

Y de rjo:ho:kara ko: moetato goande o  
で 両方から こう 燃えたの ですから ね。

H zjaqtatoja na:  
そうだったんだ ね。

Y hai  
はい。

H hoide: na: ju go aqtade akuihi: ki: te mita-  
それで ね (両親が)言うよう だったので 翌日 聞いて 見た

ja sono oigen usitoi hara ano otomoobasan<sup>N</sup>  
ら、 そのう 私の家の 後ろが ほう あの お友小母さん

cute oqte mada kajaega aqta aqde hara  
と書いて、 居て まだ 芽家が あった んだよ ほう、

Y hai  
はい。

H an kora na:  
あの 羽 ね。

Y hai  
はい。

H soide na: gaqcu i hino ma:ja na'nden oigenanka  
それで ね、ほんとに 火の 廻りは、 たしか 私の家などは

hajakaqta jona hu: jaqtagao  
早かった ような 様子 だったよ。

Y hai:  
はい。

H hoide na: sodoqmo naimo toidasanzii: nanden  
それで ね、 諸道具も 何にも 取り出せないで、 たしか

mo jaqtokaqto ko: nigejaqta jona hu: jaqta:  
やっこのこと こう 逃げなされた ような 様子 だった。

Y hai: kazega hoseite kicu go sitade hara na:  
はい、 風が それで ひどい でしたから ほか ね。

H zjaqtatoja na:  
12) そうだったのだ ね。

Y hai  
はい。

H son kazega mata kon sitado:iga moeta toqto  
その 風が また この 下廻りが 燃えた 時と

iqdoki nanka konro nomantaken hose: kazega  
同時に、 何だか 今度は 野間岳の 方へ 風が

kawaqtataq cuwai na:  
変わったんだ という ね。

Y hai  
はい。

H hinonikuqna mon jaqciio aiga mo: saisjokara  
ひにくな もの だよ。 あれが もう 最初から

son aqcin hose huicjoreja kora na:  
あのう あっこの 方へ 吹いておれば ほか ね。

Y hai:  
はい。

H ken hutoka kwazimo naranataqataqdonkaran  
こんな 大きい 火事にも ならなかつたんだけれども。

Y zjasito na:  
そうですの ね。

H honnokote hanna tamagai jaqtaga minna ge:N  
ほんとに あなた、 びっくり なされたよ。 みんな どんなに

suqdoakaici omoq donka maq kaageq mirea ka-  
するだろうって 思っ、 けれど まあ 考えて 見れば 片

tauramo nai jaqtai na: sikara koqci o:  
酒も 何 だったよ ね。 あれから こっち ね。

Y hai  
はい。

H zuga aqtai site ma: imazja kora ken site  
13) 酒が あったり して まあ 今では ほか こんなの にして

mo: iemo jaqpai taqte ma jokaqtaro na  
14) もう 家も やはり 建てて まあ やかったよ ね。

Y hai  
はい。

H zuga aqtade na:  
酒が あったから ね。

Y jasito na:  
そうですの ね。

H hai: i--- jaqpai kwasisi nareja mo gaqcu mi-  
はい、 やはり 火事と なれば もうほんとに 身

nokega jodaqga kora hinobunna daizi seNna  
の毛が よだつよ ほか。 火だけは 火事に しなれば

sumantejo  
いけないよ。

Y hiNno ano hirun goq nasita hara na:  
15) あのう 藍の ように になりました ほか ね。

H zjasitadodai na: mo atainanda sa mo so:zomo  
 そうだったでしょうね。もう 私なんか そう もう 想像も

cuka: N de omaitacja: ikena hude son nigeja-  
 つかない。では あなた達は どんな 具合で 逃げな

qta monkao jaqpai  
 った のか やはり。

Y atainanda to: goasitade hara na:  
 私なんかは 迷ったのですから ね。

H ha:  
 はあ。

Y himotoga to: goasitasi ja ano jakemohantande  
 火元が 迷い。でしたし、 あのう 燃けませんので、

H hun  
 うん。

Y hoide nigekata nigemohantandonkara<sup>16)</sup> jaqpai  
 それで、 逃げませんでしたけれど、 やはり

nimocuba moqdahikata goasitai na:  
 荷物を 持ちだしかた でしたよ ね。

H jaqtarorai na:  
 そうだったろうね。

Y usiton towaka tokoise: himo kimohan tokoi-  
 後ろの 遠い ところへ、 火も 来ません ところ

se: na:  
 へ ね。

H jaqtaga sora mo  
 そうだったよ それほ。

Y .....

H a: asa nanzigoro cinkwa sitatokana  
 ああ、朝 何時頃 朝火 したのかわね。

Y asan nanzigoro goasitadokai mada hiru jake  
 朝の 何時頃 でしたらうか、 まだ 昼 燃けて

ositai na: aqpai moegositai na:  
 いましたね。やっぱり 燃えていましたよ ね。

H e:  
 ええ。

Y jaqpai hiru-goro zja na: son ka:i<sup>18)</sup>  
 やはり 昼ごろ だ ね。 その かわり、

H a: so:na  
 ああ、そうかい。

Y jaqpai si oq tokoi(ga) goasitadon<sup>19)</sup>  
 やはり している ところが ありましたけど。

H so:na  
 そうかい。

Y hai  
 はい。

Y e:  
 ええ。

## 2. 運動会に参加をすすめる

録音日時 1966年11月19日  
 録音場所 笠沙町片善  
 金宮荘(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)  
 H 林 達郎 男 大正6年生 商業 既出  
 Y 山中房子 女 12年生 農業 \*

解説：町の顔役である男性が小学校の運動会に組入会としても参加するよう女性に頼む、女性はこの次は踊りなどだけいこして参加するようにしたいという話。

H konmaja omaja: gaakon kwaiga aqte ejoto  
 この前は あなた、学校の 会が あって ちよと

huzinkaino koqde aqtaqdo omaja:  
婦人会の ことで あったぞ あなた。

Y hai  
はい。

H siq kai ki:ciqkjai na:  
しっかり 聞いておきなさい ね。

Y hai  
はい。

H a n: sinoqno na:  
あ の う 椎木の ね。

Y hai  
はい。

H kaqkosantaqjara: kosaqjama n ara macusitadō-  
克子さんたちやら、 高崎山の あれは 松下ど

nna nancju hutokao hara  
んは なんという 人かぬ ぼら。

Y kazukosanna  
和子さんですか。

H a: a: kazukosantaqga: gaqkon omaja: monno  
ああ、ああ、和子さん達が 学校の あなた 門の

maede hajasan (hajaq)san iqtoq maqcjai maqc-  
前で 「林さん 林さん ちょっと 待ちなさい 待ちな

jai cjute ijai mon jaqde naigoqkaocci ataimo:  
さい」 と 言われる もの だから、何事ですかと 私も

tamagaqte tomaqtataissa:  
びっくりして 立ち止まったのさ。

Y hai  
はい。

H sositaja na: hajasisan kondon an: undo:kai-  
そしたら ね 林さん 今度の あ の う、運動会

niwa dositen sora katauran huzinkaino-simo  
には どうしても 片側の 婦人会の道中も

ano dete moro goto: omansa n hokara hana si  
あ の う 出て 買う ように あなたの 方から 話

siq temohankaci: tanomarete omaja:  
して 下さいますかて 頼まれて あなた。

Y e:  
ええ

H e mata omaitaja: son kondontomo nanzjai  
え、また あなた達は、 今度も 何にも

mada kataijocja oijarantoka  
まだ 語り合っては おられないのか。

Y i: ja  
いいえ。

H bojshika ne: sa hutoka buraki oqte son kata-  
ぼんやり ね、それは 大きい 部屋に いて 片

uran huzinkain deran cu koqga ai mon jaqcuka  
番の 婦人会が 出ない という ことが ある もの なのか。

son: ciqta ko: daika iman kwaijowa dai  
少しは ころ、誰か 今の 会長は、 誰

jaqtokao  
なのかい。

Y namai juwanns sunmohantoke  
名前 言わなければ いけないのですか。

H so: na: o: sora: kiqjares: naja  
そう ね、おお、それは、聞きなされば、いいえ。

Y ima hora ai goandeja atsinanda kaicjo: cjuwa  
今は ぼれ、あれ ですよの。 私なんか 会長 というのは

kimahanzi o  
決まりませんで ね。

H ha  
は。

Y iqkagecu ko: taide siq ondeja hara  
1カ月 交替で して いますから ぼら。

H ha: ha:  
はあ、はあ、

Y kaicjo: o na:  
会長をね。

H aq soide o kongeono to: banna daikao  
あつ、それでね。今月の 当番は 誰かい。

Y NR

H nancina  
何だって。

Y jaqpai namai ju:mositona  
やはり 名前を 言いますの。

H juqkaqsjareja siqcoijaq toka ora sitan' mon'  
教えてくればば 知っておられる 時は。私は 知らないもの…。

Y namaeci ataimo wakaha nna kora  
名前って 私も わかりません ほか。

H naina wakarazina  
何です。 わからないでかい。

Y hai  
はい。

H sa da-re so: danno surea jokakoi na: jamaN-  
さあ、誰に 相談を すれば よからうかい ね。 山の  
20)  
cjan'ni juq mirokai na:  
父さんに 言って 見ようか ね。

Y hai  
はい。

H aijara an-sjujarani: nankakan'ka kataq miro-  
あれやら あの道中やらに 何かいるいる 語って 見よう  
kai  
かい。

Y hai  
はい。

H sosite sora dositeN omaitaqno jaqpai waqka  
そして ほれ、 どうしても あなた達が やはり 若い  
25)  
taq jaqtaqde: cju: sin'ni naijarana sumancj  
方 だから 中心に ならなければ いけないと  
omotaqde  
思うので

Y hai  
はい。

H komodoma: dejareja joka sen senna na: kodo-  
今度こそ 出られると よい、 そうしないよ、 子供  
Nga muinakataqcio.  
が 可哀そうだものね。

Y zjasito na:  
そうです ね。

H hokaN tokoino na: an' huzinkaino-sin: dejaqte  
外の ところの ね、 あのう 婦人会の道中が 出られるのに  
omaja: wagen buraqkara dejaraN mon' jaqde  
あなた、 自分の 部隊から 出なさん、 もの だから。

Y hai  
はい。

H hara kodonno-siga na:  
ほれ、 子供の道中が わ、

Y hai  
はい。

H tozin' naka jona hu jaqdo  
さびしい ような 様子 だよ。

Y hai  
はい。

H de: seqkaq son: ko: kun' an' kanbun-simo sen  
で 折角、 そのう、 校医の、 あの、 幹部の道中も、 そう  
jute ijaqtaqde  
言って 言われるので、

Y hai  
はい。

H kotohidoma mo: sa ataijara sora mo: hasigu-  
今年こそは 私やら 私らもう 橋口

qjara site mata: ko: sora nnu site moqkakeq  
やら して また こう 相談を して もちかけて

kuqde:  
来るから。

Y hai  
はい。

H son toka sora omaitacimo do-se tanomanna  
その 時は あなたにも どうせ 嫌まなければ

naran koqmo deqtaqde na:  
ならぬ ことも 出るのだから ね。

Y hai  
はい。

H joka hui site hitoq kotohidoma mo: undo:kai-  
よい 様に して 一つ 今年あたり 運動会。

ni odoi sitateq kurejai na:  
に 雨りを 仕立てて お呉れ ね。

Y hai keikoni iqmohannara hora  
はい。 稽古に 行きませんなら ほら。

H a: mata kekowa seqkara na:  
もちろんさ、稽古は しなくち。 ね。

Y hai  
はい。

H keko cjutaci: so: na: jaqpai sa: hiwa sigocu  
稽古と 言っても そう ね、 やはり ね 昼は 仕事を

site banmo isogahikaijaqtaqdonkara  
して 晩も 忙しくあられるんだけれども

Y hai  
はい。

H soja ma dokon-simo sen sijaqtai kotai: omaja:  
それは まあ、何処の道中も そう なさるのだ もの あなた。

Y nenni iqdono undo:kai goande: hamecukemohan-  
年に 一便の 運動会 ですから、 頑張らなければなりま

nara omaja  
せん あなた。

H katauran-sibaqkai sijaqtojanasito  
片瀬の道中だけ なさるのじ。ないし。

Y hai  
はい。

H siga naran cu koqga ai monka omaja mukasja  
でき ない という ことが ある ものか、 あなた。 昔は

omaja katauran huzinkaino-siga gjokurinko:-  
あなた 片瀬の 婦人会の道中が 玉林校区の

kun huzinkaino-si: ri:do si oijaqtaqde sai:  
婦人会の道中を リード して 居られたから ね。

Y zjssito na:  
そうですの ね。

H wageh oqkahankara kiq mon zjaqtaiga  
うちの お母さんから 聞く もの だったのよ。

Y hai  
はい。

H zundarejannacio ciqta siqkai sijaranka  
だからなさるなよ。 少しは しっかり なさらないか。

Y hamecukemosa konda:  
頑張れませんなら 今度は。

H jokana  
いいかい。

Y hai  
はい。

H e: honnara  
ええ それなら。

Y hatareq<sup>29)</sup> keikoni itate  
 精出して 稽古に 行って、

H n  
 うん。

Y de: mata hokan-si:mo juqkasemohannara<sup>30)</sup>  
 そして また 外の連中にも 教えませんでした。

H sen siq kurejai  
 そう して 下さい。

Y hai  
 はい。

H soide: honnara ma atsiga mata: kju asitan  
 それで それなら ま 私が また 今日 明日の  
 uci sora an-si:tomo banasu site o  
 うちに あの連中とも 話を して ね。

Y hai  
 はい。

H de: moitacu goq suqde  
 それで 盛り上がる ように するから。

Y hai  
 はい。

H ma: omansa:mo sora mo ima ataikara kiqkjaq-  
 まあ あなたも ほら もう、今 私から 聞かれ  
 tataqde sora na:  
 だから ほら ね。

Y hai  
 はい。

H sosite ma: waga tomodaqno: son kino ota-  
 そして まあ 自分の 友達のを その 気の 会った  
 siniden o:  
 連中にも ね。

Y hai  
 はい。

H ma: kotohidoma kora ken site: sen site ma.  
 まあ 今年あたり こう して そう して

ano: sodanno uketataqde jarowa cju: guwaini  
 あのう 相談を 受けたのだから 「やるう」という 具合に

ciqtoden ko. ku:kio cukui itaq kuijahan ka  
 少しでも こう 空気を 作って 行って 下さらんか。

Y hai  
 はい。

H so surja: joq kotohidoma: joka hui iqtara-  
 そう すれば<sup>31)</sup> 今年あたり いい 振込に 行くのでは  
 senka  
 ないか。

Y hai  
 はい。

H na  
 ね。

Y hai  
 はい。

H nancjutaci mo: omaitaqa cju:sin jaqtaqdeja  
 何と言ったって あなた達が 中心 だからよ  
 sa:  
 ね。

Y hai  
 はい。

H na  
 ね。

Y hai  
 はい。

H sen siq kurejai honnara mo: tanonde sora na:  
 そう して お呉れ。 それでは もう、寝むから ね。

Y hai  
 はい。

H hai  
はい。

Y hai .....  
はい.....。

### 3. 結婚式の今昔

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦  
金宮荘(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)  
K 飯山長太郎 男 大正2年生 町役候補員 0~現在まで在郷但し、23か月の  
程度で季節的に長崎県・山口県  
島根県に出稼(20才~30才)  
M 前田ナツエ 女 明治42年生 商業 0~15才在郷、15~20鹿児島  
市、20~21福岡市、21~36  
京城 36~在郷

解説:昔の結婚式はこっそりと取りおこなわれ、花嫁にもいたづらをするものであったが、今はさることもなく旅館などで披露もかねて行うようになった。話手(女)の最近身内でとり行われたことをとり入れながら話は進行している。

K nacjan koncia  
夏ちゃん、今日は。

M konniciwa  
今日は。

K doqka i qkjasitana  
何か 行かれたのですか。

M hai  
はい。

K obanna konogora jo:icirokuN-gate naika gozu-  
おななは この頃は 洋一郎君方に 何か 結婚

Nke: kwankeide i qkjaqtaci kiqmositadonkaran  
の 関係で 行かれたと 聞きましたけれども。

M hai soino koqde na: atai ima sintan tosiozi-  
はい。 その ことで ね。 私は 今 下の 縣四おじ

sankate i qmositato:  
さん方へ 行きましたのよ。

K so:na  
そうですか。

M hai  
はい。

K joka kocu sijasita na:  
よい ことを なさいました ね。

M okagesa:de joka koq gozasita  
お蔭さまで よい こと でした。

K waqze: konogoronta: ko: hade naqte: mukasi-  
すごく この頃のは こう へで なって 昔

to simoseja igenka cigo eq cumonga  
と しますと、 なんだか 違っている と言いますが。

M sen goasito  
そう ですよ。

K ikena huni imanta: sijaqto goahika  
どんな 服に 今のは 女さるの ですか。

M ma: na: mukasa hora ano wagenmoino gozjunke  
まあ ね。 昔は ほんら あの 自分辺の 結婚

cuwa mo: nakadaqdonno modoke itate  
というのは 仲立ちさんが 貴いに 行って

K hai  
はい。

M kurejaq tamohankaci  
下さい ませんかと

K hai  
はい。

M agemonde cijanseba:  
 差上げますよ と言われれば、

K hai  
 はい。

M sosite hora mata konda an ojan-sito nakada-  
 そして はり また 今度は あの 親の方々と 仲立ち

qdonto o:  
 さんと ね。

K hai  
 はい。

M socuto sakanao moqte iqkjai mon goasitagao:  
 鏡附と 着を もって 行かれる もの でしたわね。

K zjasita ne-zudonno gozunke cute na: ju mon  
 そうでした。 ねずみ どの 結婚式 といつて ね 言う もの

zjasitai  
 でしたよ。

M ha:i nezunno gozumuke cute gozjunkeo sijaq  
 はい。 ねずみの 結婚式 といつて 結婚式を なさる

toka mo koqsoto  
 時は もう こっそりと

K hai  
 はい。

M hitoni wakaran go wakaran go koso koso koso  
 人に わからない ように、 わからない ように、こそ こそ こそ

koso  
 こそ

K hai  
 はい。

M ano cureke itate  
 あのう 遅れて 行って。

K hai  
 はい。

M soi mata hutoN-sja o:  
 それに また 人々は ね。

K hai  
 はい。

M koso koso dogkara kikkaziqjagtajara konnja:  
 こそ、 こそ、 どこから 聞きかじりなされたやら 今夜は

ahike gozumukega aq cuga cute  
 あそこは 結婚式が ある そうだ と言つて

K zjasitai na:  
 そうでした。 ね。

M zoro zoro zoro zoro minna hogomekara mike  
 ぞろ ぞろ ぞろ ぞろ みんな 熊子の穴から 別に

kite:  
 来て、

K hai  
 はい。

M amado: simete:  
 雨戸を しめて、

K zjaiositai na:  
 そうでしたよ ね。

M koqsoi sijai cumoinotoga mi:nna koso koso  
 こっそり なさる つもりなのが みんな こそ こそ

mo zoro zoro cute kite mike kite na:  
 もう ぞろ ぞろ 付いて 来て、 別に 来て ね。

K zjaiositai na:  
 そうでしたよ ね。

M agena gozunke goositadogao:  
 あんな 結婚式 でしたらうがね。

K hai sosite ma naraq tocja maq cjoqte  
 はい。 そして まあ 並んで 途中は 待つて いて、

M ha:i  
 はい。

K isu nagetai zako: nagetai  
石を 投げたり、 雑魚を 投げたり、

M hai  
はい

K niwatoi tobasetai sui mon zjaqtai na: ombi-  
遊を 飛ばせたり する もの だったよ ね。 面白

toka mon zjaqtacio  
い もの だったよね。

M otokon-sja neqkara miqno hate hahig'o: nage-  
男の連中は みんな 道の 傍に はしごを 投げ

cuketai  
つけたり、

K hai  
はい。

M to:ja naran goq site  
連れられ ない ように して

K hai  
はい。

M komarasegoijasitadogao:  
困らせていましたでしょう。

K zjasitato: na:  
そうでしたよ ね。

M ima: soikara mireba imadoqno-sja hirakete:  
今は それから 見れば、 今時点の人々は ひらけて、

K zjanga  
そうですね。

M soqen warusamo sijahan goq nasitadon  
そんな 態さも なさらない ように なりましたけど、

K ha:i  
はい。

M na: son gozunken jo:sikiga mata sora'ano  
ね。 その 結婚式の 様式が また

38)  
musubu site moroke iq toki  
結びを して 買いに 行く 時

K zjanga na:  
そうですね。

M morote kimonseba o: mata ano konda sakanato-  
買って 来ますと ね、 また 今度は 着と

socuto moqte itate  
挨拶と もって 行って、

K hai  
はい。

M konda mata son imade ju: hora ano juino:kin  
今度は また そのう 今で いう ばら あのう 結婚金

cutooba na:  
というのを ね。

K hai  
はい。

M mo iquimo magoioijasitadogao:  
もう いつまでも 待つおられたらうかね。

K zjaiositai na:  
そうでしたよ ね。

M sosite ijoiyo jomesanga kaqte kite koikara  
そして いよいよ 娘さんが 帰って 来て、 これから

keqkonsiki suq cju maen hini naqkara minna  
結婚式 する という 前の 日に なってから みんな

juigonkinu moqte iqgoijasitade' hora na:  
41) 結婚金を もって 行くものでしたから ばら ね。

K hai hai  
はい。 はい。

M soidon konogorowa mo: ano: mata icibudewa  
42) けど この頃は もう、 あのう、 また 一部では

mada sono sikio sijaq tokoimo goandonkaran-  
まだ その 式を なさる 処も ありますけれども、

hora  
はら。

K hai  
はい。

M ano ima: mo: musubi cute  
あのう 今ほ もう 結び と喜んで。

K ha:i  
はい。

M osakanato: sjocuto moqte iqmondogao  
お前と 婚約と もって 行きますでしょう。

K hai hai  
はい。はい。

M son toq mo cuideni ano juino:kinmo cjan to  
その 馬 ついでに あのう 結婚金も ち+んと

ataja mo osameq kimosita  
私は もう 精めて 来ました。

K e:  
ええ。

M konda:  
今度は。

K sora jeka koko sijasita  
それは よい ことを なさいました。

M hai  
はい。

K mukasja o: an miaikeqkon cjana monde  
昔は ね、あのう 見合結婚 というような もので。

M hai  
はい。

K shike ikanka moroke iqkjaqtaga: cija  
43)  
「あそこに 嫁がないか (仲立人が買いに 行かれたよ) ね」と言えば、

M hai  
はい。

K mo sijonasi iq mon zjaqtadon  
もう 仕舞なし 嫁く もの だったけれども。

M hai  
はい。

K imanta an renaikeqkontoka nan'toka' cuito:  
今のは あのう 恋愛結婚とか なんとか 言うのを

simosi cmosai na:  
すます そうですよ ね。

M sogen goasito  
そうなん ですよ。

K zigota mon cjuwa na imadoqno-sinta:  
違った もの だよ ね、今時分の遅中のは。

M 笑 い

K hedonka: N mu muqkasi' goansai na:  
44)  
けれども むずかしい です ね。

M hai  
はい。

K (ho)nn'bkote: nakadaqmo sora noqsjahanme  
45)  
本當に 仲立ちも それは つらいことでしょう。

M hai  
はい。

K iggoro sijaqtahika sosite  
いつ頃 なさいましたか それで。

M ataiga joiciro: mo na:  
私の 祥一郎も ね。

K hai  
はい。

M an waga sukide:  
あの 自分が 好きで。

K hai  
はい。

M gesiten<sup>46)</sup> obasan an ko moroq kuijarankaci  
どうしても 伯母さん あの 猴を 買って 下さらないかと

jute  
買って、

K e: zjabicuro:  
ええ、そうでしたらう。

M hai  
はい。

K hiqcuq<sup>47)</sup> oqtatai na: honnara na:  
くっついて おったんだ ね。 それなら ね。

M ha:i  
はい。

K e:  
ええ。

M wagadoga mo hanasiote:  
自分たちが もう 話し合って、

K e:  
ええ。

M ano gesiten na: keqkonnu su go. aq. cju mon. goa-  
あのう どうしても ね。 結婚を し た い という もの です

nde  
から。

K hai  
はい。

M waga sukinara mo sogen se cjute  
自分が 好きなら そんなに せよ と言って、

K a: so:na  
ああ そうですか。

M sosite taqkonimo kataijute  
そして 親子にも 語りあって

K ha-i  
はい。

M ano tojozisanmo mo joka koq jaqci. jute ku-  
あのう、豊二さんも もう 「よい こと だ」と 買って く

rete  
れて、

K hai  
はい。

M sosite hora mo moroke iqmositaja  
そして ばら 買いに 行きましたら、

K hai.  
はい。

M mukon-simo mata iaki tamosite hora aigate  
向うの方々も また すぐ 下さって ばら、 ありがたい

koq jaqtaci  
こと だったと。

K e: sora joka koq zjaqta: na:  
ええ、それは よい こと でした ね。

M soide mo okagesa:de na joka anbe gossitato:  
それで もう お蔭さまで ね、 よい あんばい でしたのよ。

K soide dokode sijaqto goahika gozun kewa:  
それで、 何処で なさるの ですか 結婚は。

M konda na:  
今度は ね。

K hai  
はい。

M imadoka hirakete:  
今時分は ひらけて、

K ha:i  
はい。

M ano kanemijaso:de rjo:hoq<sup>48)</sup>  
あのう 金富荘で、

K e: asukodena:  
ええ、 あそこですか。

M rjo:ho:kara joqte  
両方から 寄って。

K rjo:ho:kara joqto goahika  
両方から 寄るん ですか。

M hai  
はい。

K are:  
あれっ。

M sosite mo: otokon emo onagon emo minna  
そして もう 男の 家も 女の 家も みんな。

K hai  
はい。

M ninzuo kataijote  
人数を 隔りあって。

K hai  
はい。

M sosite kanemijaso:de mo iqsjoni:  
そして 金富荘で もう 一緒に。

K iqsjoni na:  
一緒に ですか。

M ano asukode sakazuqmo sesete  
あのう あそこで 蓋も させて。

K hai  
はい。

M sosite mo hiro:enno imide iqsjoni suqto goa-  
そして もう 披露塞の 意味で 一緒に するん です  
nga  
よ。

K hiro:enno iqsjoni goahika  
披露塞も 一緒に ですか。

M hai  
はい。

K e: imadonnote: <sup>49)</sup> cigocjonsai na:  
ええ、今時は 通っています ね。

M hai  
はい。

K soidonka:n jaqpai kandan jahikamo na: imado-  
そうだけれども、やはり 簡単 ですかも ね 今時  
nnotoga  
のが。

M kantande:  
簡単で。

K e:  
ええ。

M mo: minna hora wage:de suq toka neqkara  
もう みんな ほら 自分の家で する 時は、 みんな  
rjoricukui ano zuicukui <sup>50)</sup> gaqcu minna kuro:  
料理 作りに 大変 みんな 苦労  
simondogao:  
しますでしょう。

K huqka miqka kakai mon zjasito na:  
2日 3日 かかるもの ですよ ね。

M hai soidonkaran mo: tada kimonnu kite ahike  
はい そうだけれど、もう ただ 着物を 着て あそこに  
suwareba  
坐れば。

K hai  
はい。

M mo: iqki goqsomo dete o:  
もう すく 御馳走も 出て ね。

K zjansai na:  
そうですよ ね。

M benrina jononakai naqte kimosita  
便利な 世の中に なって 来ました。

K mendo simohan<sup>to</sup> na:  
 面倒 しませんです ね。

M hai  
 はい。

K hosite nanzikan<sup>baqkai kakai mon zjahikao</sup>  
 そして 何時間ばかり かかる もの ですか。

M ma: joiciro:ga toka nizikara goasitade  
 まあ 洋一郎が 時は 2時から でしたから。

K hai  
 はい。

M sjasinnu ucusitai sjasin ucusi zikanga ka-  
 写真を うつしたり、 写真 うつしに 時間が か  
 kasite o:  
 かりまして、 ね。

K e:  
 ええ。

M soide ano jaqpai mo dete makasi toka sinko-  
<sup>51)</sup> <sup>52)</sup>  
 出て まいります 時は、 新婚

N rjoko:se: deq makasi toka: gozi sugiq osi-  
 旅行へ 出て まいります 時は 5時 すぎて しま  
 ta  
 した。

K o: mo sen suqto gowahika  
 おお もう、そんなに するの ですか。

M hai  
 はい。

K imadonnuta uqigocjo<sup>53)</sup> <sup>54)</sup>nsai na: waqze jokata<sup>nsai</sup>  
 今時分のは 連っていますよ ね。 大妻 結婚ですよ  
 na: mata<sup>55)</sup>  
 ね。

M hiwa mihikakasi mo usuguro naikakeqkara deka-  
 日は 短い。 もう うす暗く なりかけてから 出掛

kete iqmosite na:  
 けて 行きまして ね。

K e: sora joka koq zjansai na:  
 ええ、それは よい こと ですよ ね。

M kanemi:jaso:n uezui minna miokuqte tamosite  
 金宮荘の 上まで みんな 見送って 下さって、  
 sora ano tanohika rjoko:se: dete makasitade:  
 それは あのう、楽しい 旅行へ でて まいりました。

K e: kogen cigo mon zjan<sup>deja</sup> na:  
 ええ、こんなに 遊ぶ もの ですよ ね。

M gaqcu<sup>i</sup> josju gozasita o:  
 ほんとに よろしい でした わ。

K e: sa: mo: otecuqkjasicuro:<sup>56)</sup>  
 ええ、それは もう 静安心なさったでしょう。

M hai oaigato mosjagemosu  
 はい、ありがとう ございます。

K mo: tojozisantaqja taqkosantaq<sup>nimo</sup> jorosju  
 もう 貴二さんたちや 辰子さん達にも よろしく  
 mosjagejaq tamosi  
 申上げて 下さい

M hai oaigato mosjagemosu<sup>57)</sup>  
 はい、ありがとう ございます。

K atsin<sup>ndomo</sup> kagenagara joro<sup>koq oi kata goansa</sup>  
 私なんかも 席ながら よろこんで います。

M hai  
 はい。

4. 蓬だんご

録音日時 1966年11月19日  
録音場所 笠沙町片瀬金宮荘 (旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

M 前田ナツエ 女 明治42年生 商業 既出

Y 山中房子 大正12年生 商業

解説：路上で蓬つみから帯る女に出会い互に蓬だんごを作って他郷の子供などに送ってやらなければならぬ話です。

M husakosa: N  
房子さん。

Y hai  
はい。

M konniciwa:  
今日は。

Y konniciwa  
今日は。

M waqze: ka tenege kabuqte kagai karute doke  
あれまあ 手拭 かぶって かがり せおうて どこへ

iqkjasitakao  
行かれたんです。

Y huqcuñke inmosita  
蓬つみに 行きました。

M e: mo sangaqno seqmo cikazuqmonde na: an  
ええ、もう 3月の 節句も 近づきますから ね。 あのう、

Y hai  
はい。

M huqga mo deq ositakao  
蓬が もう 出て いましたか。

Y hai de ositado doqsai  
はい。 出て いましたよ、 たくさん。

M e: ataimo huqcuñke ikanna sumanci omotaqdo-  
ええ 私も 蓬つみに 行かなければ いけないと 思うのだ

ñkaran kora mo gaqcu iqqote iqdahimoha: N  
けれど、 ほんとに 一向 行けません。

Y hai  
はい。

M sosisiq<sup>60)</sup>

Y uton hamañ o:<sup>61)</sup>  
大当の 浜の ね。

M hai  
はい。

Y ueñmoiga do-hikoden deq ondo<sup>62)</sup>  
上のあたりが どれだけでも 出て いますよ。

M e: zjahika ahikoatsja  
ええ、 そうですか あそこあたりは。

Y ahikonmoja  
あそこあたりは。

M ahiko(at)tsja hiataiga jokande na:  
あそこあたりは 日当りが いいですから ね。

Y hai  
はい。

M e: mo sangaqno seqga cikazuqmosita na:  
ええ、 もう 3月の 節句が 近づきました ね。

Y hai  
はい。

M ataimo hajo site o: an dagomo kodomonimo  
私も 早く して ね 団子も 子供にも

okuqte jaraNna sumantaqdonkara omo oi koqba-  
送って やらなければ いけないのだけれど 思っている ことば

qkaide iqqote gaqcu i kane:mohaNna kora na:  
かりで 一向 ほんとに 叫びませんよ ころ ね

Y hai  
はい。

M omaNsataka iqdeN seN site iqga naijande joka-  
あなたかたは いつでも そうして 行け ますので よろし

ndo:N mo iqqoro cukuijahikao dagowa:  
いですが いつ頃 作られますの 団子。

Y dago na:  
団子です ね。

M hai  
はい。

Y saNgagno seNno jaqpai hini cuqmohaNnara na:  
3月の 節句の やはり 日に 焼きませんなら ね。

M saNgagno a(h)hino miqkan hini cukuijahika  
3月の あの日の 3日の 日に 作られますか。

Y hai  
はい。

M atainanda kodome okuranna sunmohande na:  
私なんか 子供に 送らなければ いけないですから ね。

Y hai  
はい。

M ciqta hajo cukuqte:  
少しは 早く 作って。

Y hai  
はい。

M anmai nuku naran uci hajo: ano okuihanna  
あまり 暇く ならない うちに 早く、 あのう 送りますと

uemandogao:  
腐りましょ。

Y hai  
はい。

M seide iqga jokaqhjara mo hajo jomogimo toi-  
それで いつが よいやら、 もう 早く 籠も 取り

ke ikaNna suman sumanci omokatade na:  
に 行かないと いけない いけないと、 思いながら ね。

Y hai  
はい。

M mata taqkosanNideN toqte moremohaNnara o:  
また 辰子さんにも 探って 貰いませんなら ね。

site ano mata hajo okuimohanna hora ju:bin-  
そして あのう また 早く 送りますなら ね、 郵便

kjoqga mo iqdoki naqte: dagon jamaga deke-  
局が もう 同じ時 になって 団子の 山が 出来

monde hara na:  
ますから ね、 ね。

Y hai  
はい。

M kocucunga iqdoki nanseba: omaNsataka doke-  
小包が 一度に なりますと、 あなた達は どこへ

zja okuijahantona  
も 送らなさいとですか。

Y okuimosito: ataidomo ko:beni  
送りますの、 私たちも 神戸に。

M ko:bese: okuijahika  
神戸へ 送られるのですか。

Y imoqga hai itaq onde  
妹が はい、 行って いますから。

M e: minna jorokuqbjande na:  
ええ みんな 暮られますから ね。

Y ha:i ma: dagoga iqban joka cumo(nde hora na:  
はい。 まあ 団子が 一番 よい といいますが ね。

- M ha:i sosite o:  
 はい、そして、ね。
- Y inaka a:ziga dete:  
 田舎の 隙が 出て。
- M hutekoq cukuijahika dango:  
 たくさん 作られますか 団子。
- Y ha:i ma nisubaqkai  
 はい、まあ 2升ばかり
- M nisubaqkai  
 2升ばかり?
- Y hai  
 はい。
- M mo ataja kotosa na: kodomoga nannimo decjo-  
 もう 夏は 今年は、ね、子供が 何人も 出ていま  
 nde gosubaqkai cute  
 すので 5升ばかり 揚いで、
- Y bojo  
 おや
- M hajo dago: site okuranna sunmohangaci  
 早く 団子を して 送らなければ いけないと。
- Y wazeka:  
 大変なこと。
- M mata se:donkara<sup>(63)</sup> taqkoni tanonde o:  
 また そうだけれど 辰子に 箱んで、ね。
- Y hai  
 はい。
- M kozuqde<sup>(64)</sup> morotai nai(sitai)-senna sumanto goan-  
 つき叩いて 貰ったり、 なにしたりしなければ いけないの、で  
 sa sora  
 すよ、それは。
- Y kozuqkataga nohimohan na:  
 つき叩くのが たまりません、ね。

- M ha:i zjaqcumondo: mo. ataja mo.....  
 はい、そうぞうですよ。 もう 私は もう.....
- Y (temamega) deketai  
 手豆が 出来たり
- M hai naigoq cueba taqkosa<sup>n</sup> taqkosa<sup>n</sup> cute  
 はい、何事、ていえば、辰子さん、辰子さん、といて、  
 taqkonibaqkai cukui moroto goande  
 辰子にばかり 作って、貰うの、ですよ。
- Y ha:i  
 はい。
- M kotohidoma waga teo kakete cukuranna suma-  
 今年あたりは 自分の 手を、かけて、作らなければ、いけな  
 ngato omote na:  
 いと、思って、ね。
- Y cuqga najahikao  
 揚くことが、できますか。
- M hai cuqga nahito: oman<sup>s</sup>a ciqtozuqden  
 はい、揚げ、ますよ、あなた、少しずつでも、
- Y gotemo<sup>(65)</sup> kanawan goq najjando hora  
 腕も、叶わない、ように、なられますよ、ほら。
- M nmaka dago jande na: sangaqno seqno dagowa:  
 うまい、団子、ですから、ね、3月の、節句の、団子は、
- Y ha:i  
 はい。
- M minna jorokude kodomon-siga maqjionsao  
 みんな、喜んで、子供の連中が、待っていますよ。
- Y jahiga na:  
 そうですよ、ね。
- M hai  
 はい。

5. 八百屋さんと一婦人との対話

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠砂町片浦会館  
(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住所)

H 林 達郎 男 大正6年生 商業 既出

M 前田 ナツエ 女 明治42年生

解説：男は町や部落のいろんな役員で忙しい中から八百屋を開店している。新まいだ。仕入れ先の枕崎と往復することも多い。枕崎の百姓たちと顔見知りになり好意的によい野菜類を世話してくれる。女は新商売について何かと注意や激励のことを授けかける。実生活の対話が7で演出が3である。

M taqja: N konniciwa:  
達ちゃん、今日は。

H ha konciwa  
はあ、今日は。

M kjuwa mo makurazaki itaq kijasitakao  
今日は もう 枕崎に 行って 来られたの。

H o ima itate modoq kitabaqka: i  
おほ、今 行って 戻って 来たばかり。

M e:  
ええ。

H kesawa na  
けさは ね

M hai  
はい。

H ciqta hajo ita moN jaqde sora  
少しは 早く 行ったもの だからね。

M e: mata naika kai i qkjaqtan so  
ええ、また 何か 会に 行かれるんでしょう。

H ----(g) aqcu na mo isogasuite omaja kjuwa  
ほんとは ね、もう 忙しくて あなた、今日は

mata hi: kara sora ano naika ho: geNno naika-  
また 昼から あのう 何か 方音の 何か

ga aq cijai moN jaqde  
が ある、と 言われるもの だから。

M hai  
はい。

H hoidemo kesa omaja hacizinkorowa ma: son  
それでも けさは あなた、8時の頃は、 まあ その

mae tamago toikemo ko: rena ikanna sumahi  
前に 卵 取りにも 小浦には 行かないし いけないし

jaqtade na  
だったから ね。

M hai  
はい。

H tamago toike itate sosite mo: sora atai mo:  
たまご とりに 行って、そして もう それは 私 もう

jase koke: i qdetekara: mo: tege: siqjaqka-  
野菜 買いに 行き初めてから もう 大概 78か月

geq naqta moN jaqde na  
に なったもの だから ね。

M hai  
はい。

H mo: mukon hjaqsjon joka tokoi siqjoqtaq cio  
もう 向うの 百姓の よい ところを 知っているのよ。

M e: site joka moN cwa  
ええ、それは、よい ことだね。

H soka na: zu: ci ikeja na  
そこへ ね、 ずっと 行けば ね。

M hai  
はい。

H do:sikode<sup>N</sup> aqtaqci<sup>o</sup>  
どれだけでも あるんだよ。

M e:  
ええ。

H soide: kesa hajo itate ima modoq kimosita  
それで 今朝 早く 行って 今 展って 来ました。

M mo sonna: hon<sup>s</sup>joka ucq<sup>q</sup>eq<sup>o</sup>te kwai kwai cju-  
もう それなら 本職は 打ち 假いて 会 会 と言っ

te ne<sup>n</sup>zu kwaibaqkai ita oijaqtadeci eqcjan-  
て 年中 会ばっかり 行って おられて 僕ちゃん

mo muhine mon jansao: wageba:qkai rusubanba-  
も かあいそうな 者 ですわ。 自分の家ばかり 留守番ば

qkai site:  
かり して、

H u:<sup>n</sup> soide mi<sup>n</sup>na sen ija:taqdonkaran omaja  
うん、それで みんな そう 言われるんだけど あんた、

si<sup>j</sup>o:wa nakadeja sora oiga ke<sup>n</sup>:se<sup>n</sup>na na:  
仕様は ないんだもの。 私が こう しなければ ね。

M ha:i  
はあい。

H dakara ma: okagesa:de: mo ima:saqmo juta  
だから まあ お蔭様で、 もう 今先も 言った

goq na: makurazaqdemo: si:ega deketai site o:  
ように ね 枕崎でも 知り合が 出来たり して ね。

M ha:i  
はあい。

H aqci urouro koqci urouro senzi na zikanga na  
あっちへ うちうち、 こっちへ うちうち しないで ね、 時間が ね、

mihikosite ike<sup>a</sup> mo iqi: son si:rega nai  
短くて。 行けば もう すぐ 仕入れが 出来る

mon jaqde ma son te<sup>n</sup>na konogora ciqta nareq  
もの だから。 まあ その 点は このごちは 少しは 願って

kimosita:  
来ました。

M mo ciqta narejasitakao  
もう 少しは なれましたか。

H ha:  
はあ。

M sosite gen jahikao kjabecuwa mada newa saga-  
そして どんな ですか。 キヤベツは まだ 値は さが

imohankao  
りませんか。

H konogora ci:qto sagaqta  
この頃は 少しは さがった。

M dohiko simohikao  
いくら しますか。

H ima na ima guramude: so: na: staiga uqta  
今 ね、今 グラムで、 そう ね、 私が 売った

tokja ma: goe<sup>n</sup>kara rokue<sup>n</sup> cu tokoi jaqdo  
時は まあ 5円から 6円 という ところ だよ

omaja  
あなた。

M soidonkaran jaqpai mada hitoq kaeba nanzju-  
そうだけれど、 やはり まだ 一つ 買えば、 何十

enci simondogao:  
円で しますでしょう。

H sora suqto: omaja omosa jara sora sonta  
それは するよ、あなた、 置き だよ、それは、 そいつは。

M ataja kjabecuga suq jaqdonkara a<sup>n</sup>mai taqka-  
私は キヤベツが 好き だけれども、 あまり 高

kara tamoiga nara<sup>n</sup>  
ければ 食べることが 出来ない。

H a<sup>n</sup>na  
あのね。

M hai  
はい。

H ataimo omaetaqno sen ijaigato mote: makura-  
私も あなたたちが そう 言われると 思っ、 枕崎  
zaki itate an hjaqsjon-sikara ko: toka na:  
に 行って 百姓の道中から 買う 時は ね。

jaqpai o waga teni kakaqte na kaika jonato-  
やはり ね、 自分の 手に さわって ね、 軽い ようなの

kara omaja moq kuqtqdo:  
から あなた 持っ、 来るんだよ。

M e:e  
ええ。

H ataidonga moq kuqta omaja iqban kaika taqdo  
私なんか もっ、 来るのは あなた、 一番 軽い のだよ。

M kaikata omansa nakaga meq orande nmo naka-  
軽いのは あなた、 中が 巻いて いないから うまく ないの

tansa sora  
ですわ。

H N:nja sono ka:i na  
いいえ、 その 代りに ね。

M hai  
はい。

H oiga juqkasuqde<sup>71)</sup>  
私が 替えるから

M hai  
はい。

H mecjoranci  
巻いていないと、

M hai  
はい。

H cja:nto anta ataiga moq kuqta na: an-sini  
ちゃんと そいつは 私が 持っ、 来るのは ね、 あの道中に

ki:te suqtaqde na ko: haqpa'o ki:jaq toka  
聞いて するのだから ね、 こう 葉っぱを 切られる 時は

na ja:rasika: sono joka aqno kjabeq jaqtaq-  
ね、 かわらしい よい 熊の キヤベツ なんだ

do omaja  
よ あなた。

M e: an na: makurazaki ijqjaqta toka sora  
ええ あの ね、 枕崎に 行かれた ときは ね

kacuobusio moqte: ki:jaqta mo oboejasitadogao:  
節節を もっ、 来ることは もう 覚えなされたでしょうね。

H a:  
はあ。

M omansa: a hara: an makurazaqko:cja cute ju-  
あなたは ね、 あの、 枕崎紅茶 といっ、 有

meide nonde mijanse riputonando joqkan  
名で、 飲んで みなさい。 リプトンなんど よりか

do:hikoci nmake taqde  
どれだけか、 うまいの だから。

H .....sentoga doke aqtokao  
そんなのが どこに あるのかい。

M N: na makurazaki omanna ko:cjaga a:n ko:ba-  
うん ね、 枕崎に あなた、 紅茶が あのう 工場

ga aqtande hara  
があるんです ね。

H e:  
ええ。

M ahikokara moqte kijareba uruimo uruqta<sup>72)</sup>  
あそこから 持っ、 来なされば、 売れるも 売れるんですよ。

H nja sora mo sitan mon zjaqta:  
いや、 それは もう 知らない もの だった。

M minna na: mijagenja hara makurazakiko:cja  
みんな ね、 土産には ね、 枕崎紅茶

cute moqte iqkjaqtaNde  
だって 持って 行かれるんだから。

H e: so:na  
ええ、そうなの。

M ha:i koke daseq iqkjaNseba hora  
はい、ここに(向に)出して 置かれれば ね。

H sora dosikobaqkai suikao  
それは いくらくらい するのさい。

M hitogga na: ano komanka kanga nihjakueN  
一つが ね、あのう 小さい 婦が 2百円

ja:ndo:  
ですよ。

H e: so:na  
ええ、そうなの。

M ha:i jadoN taekonaNdomo jokohamase: modoq  
はい、うちの 砂子なんかも 顔紙へ 戻る

toka iqso aiba to:baqkai tojodasaNni tanoN-  
ときは、いつも あれを 1回ばかり 畳田さんに 顔ん

de kote moq iqtaqdo:  
で 買って もって 行くのよ。

H so: e: sa: ataja sitaNaqta sa: kondo: mata  
そう、ええ、それは 私は 知らなかったよ。 今度 また

asaqte: iq goq naqde sa maqgasiraniden ita-  
あさって 行く ように なるから 町頭にも 行っ

te tanneq miranNara na sora joka kocu juq-  
て 尋ねて 見なければ ね。 それは よい 事を 教え

kasejaqta  
て下さった。

M riputoNnandojoka na: ataja makurazaqko:cjan  
ラブトンなどより ね、私は 杖筒紅茶の

hoga dohikoci Nmaka  
方が どれだけか うまい。

H ha ma aigato goasita anta mo:  
はあ、まあ、ありがとう ございました、そいつは もう。

M naimokasimo oboejahaNna:  
何もかも 覚えなさらないか。

H zjato ho:nde na  
そうよ、それで ね。

M ha:i sinmaisaiN jaqde hai  
はあい、新まいさん だから

H joka kocina na.  
よい ことには ね。

M jasaimo atarabikato moq kite jasu uijahaNna  
野獲も 新しいのを もって 来て 安く 売りなさらなければ  
na:  
ね。

H ha: jasu uqto  
はあ、安く 売るよ。

M joka huni juqkasuqtaqde  
よい 様に 替えてやるんだから。

H soide na:  
それで ね。

M hai  
はい。

H an naqcian na: nai jaqdon jokado omaja,  
あのう 夏ちゃん、ね、何 だけれど いいぞ あなた

ataja doke itateN motete na:  
私は どこへ 行っても もって ね。

M ha:i  
はあい。

H hoide na ahikon e ikei kokon obasanno oman-  
それで ね、あそこの 隣に 行けば、このの 小母さんが 「あなた

sa dokon hutonaci ijaqde na  
は 何處の 人なの」と言われて ね。

M hai  
はい。

H N tokorowa dokoden jokataiga obasan cite  
うん。「娘は どこでも 良いのだよ、おばさん」と言っ

katareba na e anna an nizi nna na ahiko N  
語れば ね ええ あのね、あのう 人達は ね あそこの

uci i qkjarea ahiko N u'ngotoga jokatoga goan-  
家に行きなされば、あそこの 家の 良いのが ありま

do cjute na mo dogko sokoi ikeja jukasejaq-  
すよ」と言っね。ね。もう どこ そこに 行けば、教えて下さるん

taqio hoide ike N jarokai na omo nanden  
もの。それで どう だろうか 私も たしか

hjoqto sureja nigo:ka sango:ka deketakamo  
ひょっと すれば、 2号か 3号か 出来たかも

sirendo omaja ora mo sita:ndo  
知らないぞ あなた 私ほ もう 知らんぞ。

M jaqtaci mo: son uka uka site jasaino kusa-  
そうだった たって もう うか うか して 野菜の 腐

renado cukamasarengoto site  
ったのなどを 掴ませられないように して、

H wojo wojo  
おや、おや。

M hajo modog kijahanna saqsato i qkjasitatokja  
早く 戻って 来られなければ さっさと 行かれた時は。

H naja senkoq<sup>78)</sup> sen kocja sento ataja na hoide  
いいえ。 そんな 事は そんなよ 私ほ ね。それで

itatoka na: ken juto jase koke itate iqban  
行った時は ね、こんなに 言うよ。野菜 買いに 行って、一番

ataiga na: imademō ko: an-sikara jorokobare  
私が ね、今でも こう あの連中から 毒ばれて

oqta na: ma: itate nigiran koq  
いるのは ね、まあ 行って 値ざらない こと。

M bojo  
おや。

H ma negiran koq sosite na: sinamonga aqde<sup>79)</sup>  
まあ 値ざらない こと。そして ね、品物が

areja na: mo obasantaci obasantaq sora  
あれば ね、小母さん達に 「小母さん達よ、

omaetaqno<sup>80)</sup> wagadoga uijaqtaqde ataja kote  
あなた達が 自分自分 売られるのだから 私は 買って

iqtaqde mata kora ano okjaqsanni urana  
行くのだから、 あのう お客さんに 売らなきや

sumantaqde obasantaqno<sup>81)</sup> son jokaci omojaqto:  
いけないのだから 小母さん達が その 良いと 思われるのを

atsigate ziqkirobaqqai irejai na: ataja mo  
私の分に 10キロばかり 入れなさい ね、私は もう

sinamonna erande omataci makasurai cieja  
品物は 運ばないから、あなた達に 任せませよ 私ほ と言え

na:  
ね。

M hai  
はい。

H kaeqcja gn-sino na  
却て あの連中が ね

M hai  
はい。

H sidoromodoro site na:  
しどろもどろ して ね。

M hai  
はい。

H mo zeqtai waikata jaijara N na: jaqpai na<sup>82)</sup>  
もう 絶対 悪いのは やりなざらない ね、やはり ね

wagadoga kaoni kakaqcjoqde na  
自分たちの 顔に かかっているから ね。

M hai  
はい

H jokato: jaraqcio hoide na  
いいのを やらうかいて ね。

M jaqpai o: nezi: okjaqsa:nja hara <H Nnja>  
やはり ね、 おねがる お客さんには ぼれ

aN jaqseN to: jaro goq si mon jaqde na  
あのう 駄目なのを やり たく あるもの だから ね。

H zjaqtaqci hoide na mo: sinamonga nakagoto  
そうだね。 それで ね、 もう 品物が なく

nareja na: keN hutomo oijaqtado iqdonanka  
なれば ね、 こんな 人も おられたよ。 一度なんか

na ataja nizim koke itaja hoiga nakaqtadeja  
ね、 私は 人差 買いに 行ったら それが 無ったんだもの

sa: hoide na son obasaNni obasa:N nizinna  
ね、 それで ね、 その おばさんに 「おばさん、 人差は

kjuwa nakaqtatoka cutana. ziki na sokoatai  
今日は 無かったのか」と言ったら、 すく ね、 そこあたり

ko: mimaesite (o)ijaqtaqtaga..... hurosiku  
こう 見聞わして おられたんだが、 風呂敷を

ko: skete na hai ozisanNo bunna koke niziq-<sup>83)</sup>  
こう 開けて ね、 「ほれ おじさんの 分は ここに 人差

ha toq aqde koi moqte iqkisi cute jaqpai  
を とって あるから、これを もって 行きなさい」と言って

soide na huton mae jara na kakusete itate  
それで ね、 人の 前 だから ね、 隠して 行って

toqte kurejato:  
探って くれなざるよ。

M o waqze ninkiga joka mon zja<sup>84)</sup>  
おれ、 ひどく 人気が よいらしい

H a: aigate coq zjaqci o soide na makurazaqga  
ああ、 ありがたい 事 だよ。 それで ね、 枕崎が

konggora tanosu naqta: ataija  
このごろは 楽しく なったよ 私は。

M anna nizinnu kejaq toqmo daikonnu keja toq-  
あのね、 人差を 買いなざる 時も 大根を 買いなざる 時

mo hora sinnu akeq mite to:ga taqjoika  
も ぼれ、 恋を あけて 見て とうが 立っているか

taqjoranka  
立っていないか。

H to: cuwa naikao  
とう というのは 何かい。

M sinamonnu joka huni mite kejaNna:  
品物を よい あんばいに 見て 買いなざるなきあ。

H to: cuwana  
とうというのはい?

M to:ga taq oqci hora an aio: sinni hanaga  
とうが 立って いる ぼら あの あれよ、 恋に 花が

seqtoka deq andoga hara  
咲くのが 出て いるでしよう ぼら。

H sitanna ora sehta:  
知らないわい、 私は そんなのは。

M kabiga dekete daikonni kato: naqtoga aqan-  
かびが 出来て 大根に 堅く なるのが あります。

de sentomo sirabete joka huni moqte kijaNse  
から、 そんなとも、 買って よい、 具合に、 もって、 来なさい

na:  
ね。

H e son na: mo an-si sen kondo ita toka juwan-<sup>85)</sup>  
あの途中に、 そんなに 今度 行った 時味 言わな

nara omaja sono to: no taqtato: jaijanna  
さあ、 あなた、 「その、 とうの、 立ったのを、 下さるな

sora cjute na:  
それ」と言って ね。

M joka sinamo<sup>hno</sup> moqte kijaha<sup>hna</sup> sosite<sup>h</sup> jasu  
 よい 品物を もって 来られなければ、 として 安く  
 uijaha<sup>hna</sup>  
 売られなければ。

H nan cu:taci na jaqpai an-si makasureja na  
 何と 言ったって ね やはり あの運中に 任せれば ね  
 jaqpai ningen jaqdeja sa:na wari kocja de-  
 やはり 人間 だもの それね 悪い ことは 出  
 kiraren taqdeo  
 来なさん だもの。

M zjasito na:  
 そうです ね。

H hoide na son: ma kju kite asita kon ningen-  
 それで ね、 そのう 今日 来て 明日は 来ない 人間  
 zja nakatsqde sa:  
 では ないのだから さ。

M hai  
 はい。

H ma:ta iqtatdeja sa na:  
 また 行くのだ もの ね。

M hai  
 はい。

H hoide itate aku:hi na son kon cugi ita toq  
 それで、 行って 翌日 ね、 この 夜に 行った 時、  
 obasan omaja konmaenta moqte itaja omaja  
 「おばさん あんた、 この前の 持って 行ったら あんた、  
 agen gwantare: jaijaqteci ieja na obasanta-  
 あんな 粗末なのを くれなさって」と 言えば ね おばあさん  
 qmo eq sentoga maziq oqtaka kowa mo gobure-  
 「えっ そんなのが まぎって いたか、 これは 御無礼  
 sa: gowasitado sono ka:i kjuwa na ma niwa-  
 さま でしたよ。 その 代りに 今日 ね 2把

baqkai ohanna kuruqde: na te-ijaqdo jaqpai  
 ばかり あなた 呉れるから ね」と 言われるよ っぱり

omaja  
 あなた。

M e: hano moqte kijaq tokimo: kiqnohanamo  
 ええ、 花を もって 来られる 時も、 菊の花も

mo sutabanao moqte konzi ciqta cubuqno.  
 す括れ花を もって 来ないで、 少しは 菊の

jonato jokato: moqte kijahanna:  
 ようなのを、 よいのを もって 来られなけり+あ。

H soi:ga sen wake ikantarai mijai an-siga na  
 (86)  
 それが そんな わけに 行かんの だね。 あの運中が ね、

cja:nto wao cukuqcorai mon jaqde na:  
 ちゃんとして 俺を 作ってられる もの だから ね。

M e:  
 ええ。

H baqtaikanto eja naranataqdeo sa  
 っぱり だめ。 運中が できないだもの ね。

M hoide konde sutabana jaq cute makesase  
 そして 今度は す括れ花 だ と言って (俺を) 掛けさせて

kijahanna sumantando:  
 来られなき+あ いけないですよ。

H o: makesa sa: makesasuqtona: makesasuqtaqdo-  
 (87)  
 おお、 makesa sa: 負けさせるのなら、 負けさせるのだ

nkaran uq toka hutoqnede uqtade diga mokewa  
 けれども、 売る 時は 同じ値で 売るので、 私の 儲けは

huto naqtaqdo omaja sen sijareja  
 大きく なるよ あなた。 そう したさると。

hoide na naqjian ma: jokaga ataiga na dai-  
 それで ね、 夏ちゃん、 まあ いいさ。 私が ね、 だい

taid moqte kuqta sogenna ma:ci omote ataja  
 (88)  
 たい 持って 来るのは そんなには まあと 思って、 私は

jaqpai zisinno moqte kuiga na hoide: joka-  
やはり 自信を もって 来るよ ね。 それで いい

taiga  
のさ。

M anmai zisinbaqkai moqcajqtaci  
あんまり 自信ばかり おもちゃになって、

H ma soria  
もう それは

M jaqsentō: <sup>89)</sup> an uicukerarejaqtando:  
駄目なのを あのう 売りつけられなされるんですよ。

H ma n toqdoka sen koqmo nakatomo ientaqdon  
まあ うん 時々は そんな ことも ないとも 言えないが  
na ma: dokon-  
ね。 まあ どの

M jareci  
(部分) やれと。

H de jaqtokan <sup>90)</sup>  
で、 やるのかな。

M 笑 い

H soide ma: jaqpai nan cutaci: nai goanga mo:  
それで まあ やはり 何と 言っちゃって 何 ですが、 もう

sora hitozukiai cju:ndesukane: <sup>91)</sup> sen nanseja  
それは 人づき合い と 言うんですかね。 そう ありますと

na ma jaqpai an-simo: rjo:sinteki simonde  
ね。 やはり あの道中も 良心的に しますから

na honnokote waqze: ataimo omansataqno  
ね。 ほんとに 大変。 私も あなた達が

i:jaqtato: ki:ite mata mukon-sini mo zenzen <sup>92)</sup>  
言われるのを 聞いて また 何うの道中に (もう 全然)

sora mo: nanjutacja ataja siro:to jaqtaqde  
それ (もう) 何と 言っちゃって 私は 某人 なんだもの

sa: na:  
それ ね。

M hai zjasito: na:  
はい。 そうですよ

H hoide son cumoide na uqkakareja <sup>93)</sup> hora mukon-  
それで その 積りで ね ぶち当たれば、 はずれ 何うの

simo baqtai ikarenga ha:  
道中も 全然 動きがとれないよ。

M soide hakussinndao: kudarimonoto a kudari-  
それで 白染なんかね、 (下りものと あっ 下り

mono kudaimondo: <sup>94)</sup>  
もの) 下りものと

H hai  
はい。

M ano makurazaqno zinomonta nedanga cigemohika:  
あのう 枕の 地のものとは 値段が 違いますか。

H zenzen cigemohi na:  
全然 ちがいます ね。

M cigemohito:  
違いますの?

H hakaikara cigaimasuga ha:i  
秤からが 違いますよ。 はあ、い。

M e: jaqpai zinomonga taqkato gwahika  
ええ、やはり 地のものが 高い のですか。

H takaidesune: <sup>95)</sup>  
高いですね。

M hai  
はい。

H sora mo tako goansa  
それは もう 高い ですな。

M soino hoga atarasjuhite oisikandon na:  
それの 方が あたらしくて おいしいです ね。

H hai  
はい。

M cukemonnanka suq toka cito tako goansai  
濱物なんかに する ときは 少し 高い ですね。

H a: soide na: mo an: cukemonni sijaq toka  
ああ、それで ね、もう 濱物に なさる ときは

mo kudaimonde jokansai  
下りもので よろしいですよ。

M hai  
はい。

## 6. 祝儀：孫の誕生をよろこぶ

録音日時 1966年11月20日  
録音場所 佐沙町片瀬金宮荘  
(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住所)

S 坂上三太郎 男 明治40年生 漁業 0~16才在郷, 21~23熊本市(兵役), 24~27在郷, 28~37下関市, 38~現在在郷

F 坂上フク 女 43年生 農業 0~16才在郷, 17~20鹿児島市, 21~34大阪市, 34~現在在郷

解説：近所の老女に孫が出来た(他郷で懐が出産)ことをきいて、祝いに来た老人が、自分も早く孫の顔を見たいが、息子が結婚するようもないので困っている。羨しい限りだと言えば、老女は早く孫の顔をみせに一度帰郷してくれればなあと言う。男いう：待つあいだが楽しみである。

S koncjagoasita:  
今日は。

F (ko)nciwa:  
今日は。

S makote kjuwa joka hijoi goasi  
ほんとに 今日は よい 日和 です。

F joka tenki gozando na:  
よい 天気 です ね。

S mo: ohanjada: magodonmo nmarejaqtaci  
もう あなたのうちは 孫さんも 生まれなされたとか。

F hai okagesa:de  
はい。 お蔭様です。

S sa: joka koq goasita  
それは よい こと でした。

F .....<sup>90</sup>lorokug kata goansa kora  
よろこんでいる ところ です。

S otokonko jaqtatokaci:.....  
男の子 だったのかい。

F i:ja onagonko.....  
いいえ。 女の子。

S onagonkona  
女の子です?

F hai  
はい。

S e: sora mata n: mo onagonko konroroma ona-  
ええ。 それは また 女の子 今度なんかは 女

gonkode cjo:do joka tokoi zjaqta:  
の子で ちょうど よい ところ だった。

F hai ma: ici hime ni taro:tokaci ijande hara  
はい。 まあ 一 姫 二 太郎とかと 言われますから、ほら

na:  
ね。

S jaqto na: sora mo: joks koq jasita:  
そうだ ね。 それは もう よい こと でした。

F okagesa:de gaqcui joka koq jasita  
お蔭様で ほんとに よい こと でした。

S e: hosite mi<sup>97</sup>na ojako tome genki aiq jaq<sup>97</sup>  
ええ そして みんな 親子 ともに 元気で あら れて

F hai: genki aq cumondo:  
はい 元気 だ そうですよ。

S a: sora joka coq gowahi na: e: atain<sup>98</sup>ndomo  
ああ、それは よい こと ですね。 私なんか

kora mo: magomo hohika goq(ai) ziki jaqdo<sup>99</sup>-  
これは もう 孫も 欲しい ようにある 時機 だけ

ka:  
ども。

F na:  
ですね。

S ataigens<sup>100</sup>nda mo nanzja dekemohan na kora  
私の家なんか もう 何にも 出来ませんよ 上 はれ。

F ma: son uci joka hito oijansodai hora  
まあ、その うちに よい 人が おられるでしょう。

S ma: mo oreba jakataqdonkaran mo:  
まあ、もう いれば 良いんだけど も。

F oijasito  
おられますよ。

S soikara: nai ja na: mo  
それから 何 だ ね もう。

F gaqcui hajo: magon curamo miroqo aqto goa-  
ほんとに 早く 孫の 願も 見たいのです け

ndonkaran kora hanare onseba gaqcui  
ども 離れて いますと ほんとに。

S zjahiga atain<sup>101</sup>ndomo mo mago magoci mo: omo-  
そうですね。 私なんか もう 孫 孫って もう 思

cjoqdo<sup>102</sup>n makote: Nmaret<sup>103</sup>a iqqageqka iqqageq  
っているけど 生れた 1か月 1か月。

nja iqqageqzja naka ma: mukaicjuqga kitaka  
いや 1か月では ない まあ 一歳生が 来たか

konkaci ju: kodomoga atai rokuzu: sugita  
来ないかと いう 子供が 私に 60才 過ぎた

ningenni ozisan cjumosai<sup>104</sup>  
人間に おじさん と言いますよ。

F so: desuka<sup>105</sup>  
そう ですか。

S agento kikeja mo: haraga kiqkijajara mo:  
あんなのを 聞けば もう 腹が 立つやら もう

gennakajara mo nan<sup>106</sup>cjueba jokaka mo: atauga  
恥ずかしいやら もう 何と言えば いか かも 私

kokora: mo: honni cjuraga maqte naisikobaq-  
心は もう ほんに 顔が 真赤に なるほど

kai shigao  
ですわい。

F e: na: hai mata jomezjo: mihikeq jaijahanka  
え、ね、早く それ 嫁さんを 見つけて 上げなさいか

omaijajomo mata<sup>107</sup>  
お宅もね。

S aqde na: sogen omocjoqtaqdonkaran ohanna:  
なるほど ね。 そう 思っているけれども あなた

honninga omaja: motoci kiga nakaja na:  
本人が あなた 持とうという 気が なければ、 ね

ojaga dohiko mote mote cjutareci aimo naka-  
誰が どれほど 持て 持て と言ったとて、 ない

si jaqkena mon jaimosai jononaka cjuwa na:  
し、 厄介な もの ですわい。 世の中 というのは ね。

F waga mihike oijaqta<sup>108</sup>ndodai hora  
自分が 見つけて いられるでしょう ね。

S a: mihike oqtonara mihike oqi jute teganden<sup>109</sup>  
ああ、見つけて いるのなら 見つけて いると 言って 手紙でも

kurureba jokat<sup>110</sup>aqron makote tegandemo omaja  
呉れば よいのだが、 まことに 手紙でも あなた

ikesite<sup>107)</sup> ojan kokoro ko sitasici na; muka-  
 どうしても。 親の 心 子 知らずで ね。 昔

hino-sin juwaiga  
 の人々が 言われるよ。

F mo: ikuci naijaqtake  
 もう、いくつに なられたの。

S mo: jagaq sanzuga ciko narogocjaqdon wa:go-  
 もう やがて 30が 近く なるようだが、 我が子

ga tohimo joka anbe sitanto: kazuimu jubu<sup>108)</sup>  
 の 年も よい あんばいに 知らんの上。 数も 指を

iqpon iqpon oqte mitemo kanzetoransiko jai-  
 一本 一本 折って 見ても 数えきれないほど で

mosa kora-  
 すよ。

F na: hajo joka hito: nai sijaranna suman  
 ね、早く よい 人を 何 なさんなき。あ いけない。

S a: genka ko: omaetaqmo joka anbe  
 ああ、どうか こう あなたたちも よい 具合に。

F hai  
 はい。

S uzeke<sup>109)</sup> ni mimaede ki: cukecioqte na:  
 大世間を 見届して 気 つけていて ね。

F hai  
 はい。

S mosi kora koN kowaci ju: jona koga oq toka:  
 もし これは この 御はって 言う ような 態が いる 時は

ma: ai jaqdonkaran<sup>110)</sup>  
 あれ だけれども、

F hai na:  
 はい。 ね。

S tanoNmaNde na: - ki: cjukeqciqoq kurejai.  
 頼みますから ね、 氣を つけていて おくれ。

F hai kio cuke onga na:  
 はい。 氣を つけて いますよ ね。

S honnokote ojan naqte mireja na: honni nan-  
 ほんとに 親に なって 見ると ね、 ほんとに 何

tomo iwaremohanga  
 とも 言えませんが。

F e:  
 ええ。

S hai  
 はい。

F so: na:  
 そうです ね。

S soide: naija na: do: omajjada konda sannin-<sup>111)</sup>  
 それで 何だ なあ、 あなたのうちは 今度は 3人

mena hutaime:  
 目ですか、 2人目?

F mada haime jasito:  
 まだ 初め ですよ。

S hahimeqna  
 初めてですか。

F hai  
 はい。

S e:  
 ええ。

F iqdo curete kite misenkaci juq jaqtandoNkaran  
 一度 遅れて 来て、 見せないかと 言って やるんですけど

na:  
 ね。

S ha: i  
 はい。

F jaqpai wagataqqa cugoga waikatakdodai  
 やはり 自分たちの 都合が 悪いのでしようよ。

S ha ha:  
は はあ。

F modoqte kimohanai kora  
戻って 来ませんのよ ほれ。

S e:  
ええ。

F hun  
うん。

S ma: soizja ma: <sup>112)</sup> kakaeqcja tanosun: ma: na:  
まあ、 それでは、 まあ、 かえって 察し、 まあね。

mitesimaeba naimokaimo omaja aketesimaeba  
見てしまえば、 何でも あなた、 開けてしまえば、

mo sohikon koq akuimadega e naino monmo  
それだけの こと。 開けるまでが どんな ものも

tanosun jaqtaqde omaja na:  
察し、 なんだから あなた、 ね。

F denendoma curiq modoq: kija naja simohanjaro <sup>113)</sup>  
来年あたりは 遊れて 戻って 来られは しませんだろう。

S a: sora joka kog ja na:  
ああ、 それは よい 事 だ ね。

F hai  
はい。

S atainandomo mo: sento: kikeja urajamasusite  
私なんかは もう そんな事を 聞けば うらやましくて

mo  
もう。

F <sup>114)</sup> iqqi jasito: sen ijai uci:  
すぐ ですよ。 そう 言われる うちに。

S e: iqqi cju: toga na: iqqi: mata omaja sin  
ええ、 すぐ というのが ね。 すぐ また あなた 死ぬ

jona kote nareja. cjoq sime <sup>115)</sup> jaga  
ような 事に なれば おしまい だよ。

F -----waika hose: toijaqtaci-----  
悪い 方へ 取りなさって……

S soinara mo ma: ohanmo sehikejaqdonkaran  
それでは、 もう まあ、 あなたも お忙しいですが。

F hai  
はい。

S mo: kjuwa ma: koide goburesa: simohide  
もう 今日 是 であって 失礼 しますから。

F aigato mosagemosu-----  
ありがとうございます……

S ma: daizi: site na:  
まあ、 大事に して ね。

F hai  
はい。

S mo: honni joka kog jasita:  
ほんとに よい こと でした。

F -----

S ma: jorosu minnani  
まあ、 よろしく りんなに、

F hai  
はい。

S ijaq tamohi  
言って 下さい。

F aigato mosagemosita  
ありがとうございます。

S (soi)zja do: mo  
それでは どうも。

7. 地名伝説

録音日時 1966年11月20日

録音場所 笠沙町片浦金宮班  
(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

S 板上三太郎 男 明治40年生 漁業 既出

F 板上フク 女 \* 43年生 農業 \*

解説：笠沙町内に飯川橋という橋がある。その飯川というのは昔はしも洗川と呼ばれていた、その「しも」とは衣裳の意である。昔木花咲耶姫が衣裳を洗っているところに、にぎの尊が天降って来て姫に求婚されたのであったが、姫の衣裳洗いに因んで衣裳洗川というべきだが、昔は衣裳を「も」と呼んでいた。そこでしも洗川が変化して飯川となった。  
(調査者言ふ、勿論無理な説明、ことに話中に実根の「も」と「裳」とを混同している)

S a n n a :  
あのね。

F h a i  
はい。

S a : h o n n o m a n t a k e s a : o  
ああ、その 野間橋様よ ね。

F h a i  
はい。

S n o m a n d a k e s a : n i j a n a a : n i c u h a s i r a c ū t e s o n  
野間橋様には ね、あのう 五つ柱 と言って

g o n i n m a c u r a r e c j o t a q c u r o n n a :  
5人 祀られて居られるんだと 言うが ね。

F e :  
ええ。

S a t a j a s o i b a s o n g o n i n n o u c i : m a : g o n i n s a : n  
私は それを 5人 の うちに まあ、 5人 様の

u c i m i n n a s o n : g o n i n t o m e n a m a e w a s i q c j o r a n -  
うち めん女 その 5人とも に 名前 は 知 っ て い な い

d o n k a r a n n a :  
んだけれ どね。

F h a i  
はい。

S i m a s o n k o n o h a n a s a k u j a h i m e c i j u : i j a i h i t o  
今 その 木花咲耶姫と 言 う 言 わ れ る 人 <sup>116)</sup>

n a :  
ね。

F h a i  
はい。

S s o n k a m i <sup>117)</sup> o n a g o n k a n s a : o  
その 神様 女の 神様 だね。

F e :  
ええ。

S s o n o n a g o n k a n s a : g a s o n m ā : s o n k a n s a : k a r a <sup>118)</sup>  
(その 女の 神様が その 神様から)

i m a n k o : r a n a n : m e g a n e b a s h i o  
今の 小浦の あの めがね橋 よね。

F h a i  
はい。

S m a i m a n h a r a i k a w a b a s i c j u w a ( r a i ) h a r a h a r a  
まあ 今の 飯川橋 と言われる、 はら はら

n a a n k a w a g a n o z u : q t o s o n u e n h o g a z j o : r j u : -  
ね、あの 川の ずっと その 上の 方が 上流

n o h o : g a n a :  
の 方が ね。

F h a i  
はい。

S e : m u k a s j a : s o n i m o a r a i g a w a c j u k a w a j a q t a -  
昔は しも洗川 という 川 だった

taq cjudeo sora na:  
と雪うから ほろ ね。

F e:  
ええ。

S hosite son imo cjuto son wagaroga ku: na:  
そして その いも と言ふと 自分が 食う ね。

F hai  
はい。

S karsimozja nosite:  
藤原字では なくて。

F hai  
はい。

S isjo: sora iso na:  
衣裳 ほれ 衣裳 ね。

F e:  
ええ。

S isooba son konohanasakujahimeno aru oijaq-  
衣裳を その 木の花咲明姫が 洗って おられ

tataq cjude o son an kawano zu:qto uen ho-  
たと いうから ね その 川の ずっと 上の 方

de zjo:rjuN hode na:  
で、 上流の 方で ね。

F hai ha-i  
はい。 はい。

S hositaja soke son ma niniginomikotoga e:  
そしたら そこに にぎの神は <sup>120)</sup>

amakudari site kijaqte hjoqkoi kite na:  
天降り して 来られて ひょっこり 来て ね。

F hai  
はい。

S hosite a: omaja oiga ome: naqte kurenacai  
そして 「あなたは 私の 妻に なって くれなにか」て

F hai  
はい。

S ijaqtaqci <sup>121)</sup>  
言われたとき。

F hu  
うん。

S (ho) sita tokoiga ma: otoqcjanni: kite mira-  
そうした ところが お父さんに 言いて 見なけ

nna ataiga hitoizja benzija deken cite  
れば、 私が 一人では 返事は 出来ない と言っ

F hai  
はい。

S hosite son ma: oto:sanni kiqkjaqta tokoiga  
そして お父さんに 言かれた ところが

ma: jokaroci ju jona hude na:  
まあ よからうと いう ような 次第で ね。

F hai  
はい。

S hosite ma: a: hutsino-siga ma hu:huni naqte  
そして まあ 二人の人々が 夫婦に なって

jaqpai sokon noman dakesa: ni macjurarejaqtataq  
やほり そのの 野間岳様に 祀られなさら

cjudeo sora na:  
というんだよ ほろ ね。

F e:  
ええ。

S hosite son toqno ma: naiga: soikara son ma  
(そして その 時の まあ 何が それから その まあ) <sup>122)</sup>

isooba aru oijaqtare son ataimae wagen koto-  
衣裳を 洗って おられたら、 当り前に 自分たちの 言

bai ieja isoarugawa jaqtaqdonkaran na:  
業で 言えば 衣裳洗ひ川 なんだけれども ね。

F hai hai  
はい はい。

S mukahino-sa son ai<sup>123)</sup> isononi<sup>124)</sup>ja moci jugoijaq-  
昔の人は 衣裳には もと 言って

tataqdeo sora na:  
おられたんだ もの ね。

F e: hai hai  
ええ、はい はい。

S imoci na  
いもと ね。

F hā  
はい。

S hoide son<sup>125)</sup> mohukuci jaqpai imademo hara ko:  
それで も服って やはり 今でも はら こう

gozemuken toq jaqtoka nai jaqtokaci ju-jona  
結婚式の 時 だとか、何 だとかと いう ような

agen ba:inija<sup>126)</sup> ko mohukuci ma joson-sja:  
あんな 場合には も服と よその人々は

ijaqto hara na:  
言われるよ ね。

F hai: ijarai na:  
はい、言われる よね。

S so: N tame a: ma mo<sup>127)</sup> jaqpai ma: imademo jaq-  
その ため ね やはり まあ、今でも やは

pai cutawaqte kita kotoba jaqci omoga na:  
り 伝わって 来た 言葉 だと 思うだが ね。

F ha:i  
はい。

S e: soikara son a imoaraigawaga omaja: ano  
それから 手洗川が あなた、 あのう

imomo oqtorete: araimo<sup>128)</sup> a arai<sup>129)</sup>ga ko:ndo hara-  
いもも 落ちて、 洗いま、 洗いが、 今度 歳

ini naqte  
いに なって、

F e:  
ええ。

S hosite haraika: zi<sup>130)</sup> naqte na:  
そして 殿い川と なって ね。

F hai  
はい。

S hosite are haraikawabasici imazja jutsaqju-  
そして あれ 殿川橋と 今では 言うんだという

ron na:  
けれども ね。

F e:  
ええ。

S soide omaja: ano: imarea sora haraika: Nasi  
それで あなた、 あのう 今では 殿川橋

cju:ronkaran so: ju: jo:na ma: iwafeno ai  
と言っけれども、 そう 言う ような まあ、 いわいの ある

jaqpai ka: jaqtaq cjudo omaja:  
川 だった そうだよ あなた。

F e: sositena  
ええ、そして(どう)ですか。

S ha:i soide na: jaqpai atainandomo na: imo  
はい、それで ね やはり 私なんかも 何にも

kangenzi oqdonkara jaqpai kogen site muka-  
考えないで いるけれども、 やはり こんにに して、 昔

hino kocjuba naikai taguijosete kitai mitai  
の ことを、 何かと 手繰り寄せて、 来たり 見たり、

zu:qto site mireba jaqpai na:  
ずっと して 見れば、 やはり ね。

F ha:i  
はい。

S an mezurahika monmo aqtai  
あのう 珍しい ものも あったり。

F zjaqto na:  
そうですね。

S honnokote na: cute biqquisui jona kogmo  
「まことに ね」と言っ て、 びっくりする ような 事も

aqto na:  
あるよ ね。

F (zja)nsai na:  
そうですね。

S jaqpai wagen atai aqte: asaban micjoreba  
やはり 自分の家の あたりに あるのに 朝晩 見ていると、

nantomo kangendon  
何とも 考えないけれども、

F ha:i  
はい。

S jaqpai ko: ma: rekisin jona monnu sirabete:  
やはり 131) 歴史の ような ものを 調べて

mi:jai-sja na:  
見られる人々は ね。

F hai  
はい。

S jaqpai oho: kora: na:ci jute jaqpai a:ci  
やはり 「ほう、これは、 ね」と言っ て、 やはり ああと

omo kogmo ai wake jaqto hora na:  
132) 思う ことも ある わけ だよ ほか ね。

F na:  
そうですね。

## 8. 網主の奥さんと漁夫

録音日時 1966年11月20日

録音場所 茨城県片浦金宮荘  
(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住地)

M 前田ナツエ 女 明治42年生 商業 既出

S 坂上三太郎 男 \* 40年生 漁業

解説：片浦近海では鰯魚とれる。鰯魚は鰹釣りに最高の餌であるところから、県内はもちろん県外からも御買いに網主のところに泊りがけでやってくる。一日漁が少なかった漁夫の報告をきいて奥さんが苦情やら取敢やらのべる。次の隔夜には着があるうし、海も水温が高まるう等々のべがんばることを望むのが漁夫である。生贖にすべき鰯は新しく漁を予想して多く到着するの、鰯がおつかないのは残念だと奥さんが言えば、漁夫は聞かぬかかないようにうんとがんびりますなどいう。(この演出は女(勝手)が網主の娘さんとして育てられたので、昔の我家のあり様を思い出してのことである。今は住時のように鰯魚がとれなくなって御買いい人が集まる賑やかさは見られない。)

S oqsan ima jaqta:  
奥さん、今 だった。

M jaqto jaqta na:  
御苦労 だったです ね。

S ai(ga)togowasi  
ありがとう。

M darejaqt'adoga o:  
お疲れになったろう ね。

S ha: mo  
はい、もう。

M zakowa genna koq jasitakao  
鰯魚は どうな こと でしたか。

S zakoga na: joka zako jaqdonkaran uhika mon  
133) 鰯魚が ね、よい 鰯魚 だけれども 悪い もの

jaqde  
だから、

M e: e  
ええ。

S jaqto roq kago roqpon<sup>134)</sup>  
やっと 籠 6本、

M e:<sup>135)</sup>  
ええ。

S aqtaga mijai<sup>136)</sup>  
あったよ 御覧。

M sora mo sen koq cuwa nkaqtana:  
それは もう、そんな 事 って 無かったわね。

S konnjadoma mata naqmo jokade na:  
今夜なんか また 皿も よいから ね。

M hai  
はい。

S konnja: konnja: tanosunni siorannara suman-  
今夜は 今夜は 楽しみに してなければ いけな  
gaci minnade kowa hunen-simo ju kata jahiga  
いと 皆で くら 船の道中も 言っている ところです。

M e: ciqto kibaqte toijaranna na:  
ええ、少し 精出して 獲らなければ ね。

S ha:i zjaqto na:  
はい、そうです ね。

M edoken-siga do:sikoden kiq oiijaqde na:  
買い物の道中が ずいぶん 来て いられるので ね。

S e: sora mo  
ええ それは もう。

M mo nikena gaqcui ikiransiko  
もう二階には 実際は 入りきれないほど。

S

M zju:goroqninkara kiq oiijaqde na:  
15,6人も 来て おられるんで ね。

S e: e  
ええ、え。

M soide ano ciqto kibaijaranna suman  
それで あのう 少し 頑強ならならなきえ いけない

S hai sora mo: gaqcui hutoi jaqte hutoi jaran  
はい それは もう、ほんとに 一人に やって、一人に やらんと

zju wakena ikansi ohantaqmo komajai kote<sup>137)</sup>  
いう わけには 行かないし、あなた達も 困られる ことです  
na:  
ね。

M ha:i jando:  
はい、そうです。

S mo: genka jaqpai hiqbiku sui goqate na:  
もう 何だか やはり ひいきを する ように あって ね。

an hutobaqkai jaqte cju:te na:  
あの 人にばかり やって と言って ね。

M hai  
はい。

S ho:ide mo: atainandomo iqsjokenmei naq oqta-  
それで もう、私なども 一所懸命に なって いるの  
hide konnjadoma jokansodsi<sup>138)</sup>  
ですから 今夜こそ よろしいでしょう。

M mo ken site gaqcui edoken-simo ohikakete  
もう こう して ほんとに 買物の道中も 押しかけて  
kijareba na:  
来なされば ね。

S a:i  
はい。

M doke jaizaqmo nosite: otoqcyanmo sinpai<sup>139)</sup>  
どこに やり先も 無くて お父さんも 心配

sijaqde na:  
なざるから ね。

S zjando na:  
そうですよ ね。

M ciqto kibaqte  
少し 稽出して。

S hai  
はい。

M hi: baiden site toijarandokai na  
<sup>140)</sup>  
屋の探業でも して (魚を)とられないだろうか ね。

S hai zjaqto: hoNnokote na: maciqto naqga  
はい、そうよ。 ほんとに ね、 も少し 屋が。

jokaja hi:bai sureba mada nihonden sanhonden  
上げれば、 屋の探業 すれば まだ 2本でも 3本でも

na: toren cju koqmo nakataqdonkaran aqcia;  
ね、 とれないと いう ことも 魚のだけおども、 あちらは

gen jaqtadokai na kon kaigatanhenna torenta-  
<sup>141)</sup>  
どんな だったらうか ね この 海苔のあたりは (魚は)と

ndojo na:  
わかないでしようね。

M kaigataga soide toren cute koqcise: neqkara  
海苔が それで、 とれない といって、 こっちへ みんな

ohikakete kijatataqde na:  
押しかけて 来られたんで ね。

S e: ha:i  
ええ、はい。

M doko jaqtaka ju:be taq kijaqta tokoja  
どう だったか、 昨夜(火を) 焚かれた 船は。

S ju:bea aqci urebenka<sup>142)</sup> jasitato  
昨夜は あっ、 浦辺の島 でしたよ。

M e:  
ええ。

S ahikomo na: jaqrai matan janni nareja ahi-  
あそこも ね、 やはり 又の 間に、 なれば、 あそ

kon zakowa katamaqtaqdon na:  
<sup>143)</sup>  
この 箱魚は かたまるのだが ね。

M hai  
はい。

S kondon jamizuja ikenka ko: zakoga baraqci  
<sup>144)</sup>  
今度の 間までは、 なんだか、 こう、 箱魚が ばらっと

siq oi jona huni  
して いる ような 風に、

M e: sen zjahika  
ええ、そう ですか。

S ha:i soge jona huni sen zjuronnu juoraqtagao  
はい、 そんな ような 具合に 船頭さんが 言っておられたよ。

M e: sosite zakowa ciqta tomahiko  
<sup>145)</sup>  
ええ、そして 箱魚は、 少しは のこりますか。

S a: ma: zakon kataga jokade na:  
<sup>146)</sup>  
はあ、まあ 箱魚の 型が よいから ね。

M hai  
はい。

S ma: jaqpsi haqgowa mo: tomaroci omocjoqdon  
<sup>147)</sup>  
まあ、 やはり 8合は もう 残ろうと 思っているのだが

na:  
ね。

M waqze: kaqzjobunega na:  
すごく 座船が ね。

S ha:  
はあ。

M joka zaq ano i:joga mie oqci ju:te  
よい 箱魚、 あつう 魚が 見えて いると 言つて

S e: e  
ええ、え。

M .....keN site ohikakete kijareba mo zakowa  
こう して (御買人が)押しかけて 来なれば、 もう 雑魚は

torensi  
獲れないし、

S ha:i  
はい。

M kiga kizja gowahan na kora  
気が 気では ありません よ ころ。

S zjaiga na: ataihandomo ima jaqdon kora na:  
そうだよ ね。 私なんかも 今 だが ころ ね。

unto kibaqte ite ciqto iman uci toiku toi-  
うんと 頑張って 置いて 少し 今の うちに 148) 獲

kunde jikan na:  
り込んで 置かなければ ね。

M hai omo goto' ikan moN jansa kora na  
はい、 思う 程に いかないもの です ころ ね。

S ha:i  
はい。

M zako-ga doqsai sq toka hunega zuga nakasi  
雑魚が どっさり ある 時は 船が 漁が ないし、

S honnokote na: erokedonno oijaran toka  
ほんとに ね。 御買人が おられない 時は、

M ha:i  
はい。

S dosikoden zakomo torete sen site mata toren  
どだけでも 雑魚も 獲れて、 そう して また 獲れない

toqno kuseni seqkakete kite na:  
時の ぐせに (御買人が)つかめて 来て、 ね。

M joka neno suq toki torenzi na:  
よい 値が する 時 獲れないで ね。

S ha:i  
はい。

M jaqpai omo goto iqmohande kora  
やはり 思う ように 行きませぬので。

S zjahiga honni  
そうです、 ほんとに。

M ciqto kibajaranna suman  
少し 精出されなければ いけない。

S hai ma kondon naqdoma mata na 149) 150) sike:  
はい、 まあ 今度の 魚なんかは また ね。 時化に

naikamo sirendonkaran ma tegena: sikezuja  
なるかも 知らないけれど、 まあ たいでの 時化までは

senzjuronmo mada waqkare kibaraqdoci omo-  
船頭さんも まだ 若いから 頑張られると 思

cjohiga  
っていますか。

M ha:i kibaijanse ma:  
はい、 頑張らないさい まあ。

S waga koq jaqde minna na: toqtan sjo: bai 151)  
自分の こと だから みんな 獲っての 商売

jareja omaja: necjoqtaci iqsenqacimo nara no-  
だから あんた。 獲ていたって 一線ほどにも ならない

si o wagae:  
し ね、 自分の家に。

M naika tarekucja: mazi: monga siq ohikao 152)  
何か たれくも雑魚は まざりものが して ますか。

S ija mada iman tokoja mo: nannja hoikusa mo 153)  
いや、 まだ 今の ところは なんにも それこそ も

migoqka zako na:  
綺麗な 雑魚 よ。

M sora jokaga na:  
それは よいわ ね。

S ha:i  
はい。

M sogen joka katan zaka joka zakooaba toijare-  
そんな 上い 翠の 鯨魚 よい 鯨魚をば 獲られ

ba na:  
ば ね。

S ha:i agen zakonara  
はあい、 あんな 鯨魚ならば、

M waqze: joka zuga suqtaqdon na:  
すぐく よい 漁が するんだが ね。

S nemo jokstaqdon na: agentonara mo: kondon  
僕も いいんだけど ね、 あんなのなら もう 今度の

zakonanda na sa: mo: zenno kocja juwanci  
鯨魚なんか ね、 それは、 もう 銭の ことは 言わないで、

nenno kocja juwanci minna edoken-siga juo  
依の 事は 言わないで 皆 購買の理中が 言う

goq aiga  
よ だよ。

M newa: kirowan cute na:  
値は 傾らわな と言っ ね。

S ha:i  
はあい。

M gaqcu i waremo saki neqkara wakeq kure cute  
ほんとに 我も 先に 「全部 分けて くれ」と言っ、

S e zjanso:  
え、 そうでしょう。

M ijareba mo gaqcu i nika oqte zakoken-simo  
言いなれば、 もうほんとに 2階に いて 鯨魚買いの連中も

kiga kizja naka jona hu jaqdo:  
気が 気は ない ような 様子 だよ。

S ha:i soidonkaran sora hokan-sja omaja iqpo-  
はい、 そうだけれども 外の連中は あなた (鯨)!

hka nihonka toraqdo atsinandogaseka hiqja-  
本が 2本が 獲られるよ。 私なんどのさえ 7 8

154)  
qponci toreja mo: waze:ka na  
本と 狙れたので もう すごい ね。

M ha:i  
はあい。

S jokaqtato urehikaqtarorai  
よかったよ。 狙しかったろうよ。

M e: sora mo jokaqta na:  
ええ、 それは もう 良かった ね。

S senzjuro nmo jubewa na:  
船頭さんも 昨夜は ね。

M ma kibaijai daren goto na:  
まあ、 頑強なさい。 疲れない ように ね。

S jaqpai mada ciqta cumetakaro(do) nkan cume-  
やはり まだ 少しは(海は)つめたかろうけれども、 冷

taka koqnan don juq oqtaci kangeq oqtaci  
たい ことなど 言っ いたって、 考えて いたって、

suman kote wai na:  
いけない ことよ お前 ね。

M unno nakan kagenmo waikaqdode na  
海の 中の 加減も 悪いだろうよ ね。

S ha:i

M zakomo tore niqkatsansodon  
鯨魚も 獲れ にくいでしょうが。

S jasito koiga mata unga njuqmoreba mata na:  
そうですよ。 これがね、 海が 漲まれば また ね。

157)  
ano zakomo goqga ju naisi de: mo jaqpai  
あつ 鯨魚も 機橋が よく なるし、 そこで やっぱり

unga njuqmoranna ningennmade jaqpai njuqmoi-  
海が 盛まらなければ、 人間まで やっぱり あたまり

mohan na kora  
ません ね。

M kagom<sup>158)</sup> do-hikodeN dekeq kitade na-  
 籠も どれだけでも 出来て 来たから ね。

S ha: ha:  
 はあ、 はあ。

M zakowa dohikodeN toi jaqte jokataqdon na:  
 釜魚は どれだけでも 獲られて いいんだけども ね。

S ha: zjaqto na:  
 はあ、 そうです ね。

M hai  
 はい。

S mo: mo na kagomo jaqpai haciziqponbaqqai  
 もう も 籠も やはり 80本ばかりに

nai kocja nasita na:  
 なる ことは ありました ね。

M hai mo: hora mata nikatoga atokara kuqtaqde  
 はい。 はれ また 新しいのが あとから 来るんだから

na:  
 ね。

S e: e  
 ええ。

M kinumo naziqponci kiq onde  
 昨日も 何十本と 来て いますから。

S a:  
 はあ。

M kjuwa mata mukansimase son kagomo hakoqbjja-  
 今日 是 また 向江島へ その 籠も 運ばなけ

ra nna sumandoN  
 ねば いけないだ。

S e: hai hai sora mo: kagoni hazju kakan  
 ええ、 はい、 はい。 それは もう 籠に 取を かかない

goto iqpe kibara nna sunmohangra  
 ように 懸命に 押出さなきゃあ いけないです。

M ma jaqto jansodon na-  
 まあ 御苦労 でしょうが ね。

S aigatogowa si  
 ありがとうございます。

M kibaija nse  
 頑張さい。

S ha: i hoinara  
 はい、 それじゃ。

M sajonara darejan na  
 さようなら、 疲れたさるな。

S hai ma  
 はい、 まあ。

注

- 1) (p.6) 標準語的。
- 2) (p.6) 坂面という地区名。
- 3) (p.6) 直訳では「あなたは」である。念を押す意が透り、「ね」と意識してよいところ。以下例出する。
- 4) (p.6) oqtaja (いたら) が正しいと思う。
- 5) (p.7) 軍隊用語。
- 6) (p.7) 「貰い上げて」の義。
- 7) (p.7) waigenosiwa の縮まった形。si は「衆」の輩り。
- 8) (p.8) 形容詞の基本形を助詞「も」で結ぶと、注意を示す。
- 9) (p.8) 言いまちがい。
- 10) (p.9) なお自分の言葉を続けようとしたが、相手の言葉でさえぎられ、文意がととのわない。
- 11) (p.9) 標準語。
- 12) (p.10) so: が先行すべきだが、zjaqta—を自立語として使う。
- 13) (p.11) rjo: > dgu: > du

- 14) [p.11] jo kaqtado の訛り。  
 15) [p.11] 言いまちがい。  
 16) [p.12] 言いさし。  
 17) [p.12] 言いまちがい。  
 18) [p.13] 意味なし。  
 19) [p.13] 「燃えている」の意。  
 20) [p.14] 部番号。  
 21) [p.15] 標字語の「はい」に当たる。  
 22) [p.15] あとに「しっかりしなさい」と言おうとした。  
 23) [p.15] 唐突な感じだ。jujarea (言いきると)のまちがいゆ。  
 24) [p.16] 区長たる山中氏の愛称。  
 25) [p.17] 質(たち)の義。  
 26) [p.16] 応答詞の下にmata が来たばあい。  
 27) [p.18] sezunikara > sezuikara > sejikara > sejikara > sekkara  
 28) [p.19] hamecukuq (精出す)。  
 29) [p.20] 「偉いて」が原義。  
 30) [p.20] 「言って聞かせ申さんなら」の義。  
 31) [p.21] 言いさし。  
 32) [p.23] moi は「あたり・辺」の意。  
 33) [p.23] moroke の音変化。  
 34) [p.23] 「呉れやり賜わり申さんか」の義。  
 35) [p.25] 「であり居り申したよ」の義で、過去の習慣を表わす。  
 36) [p.26] これから前部と前の男性の孫の後部とが重なる。  
 37) [p.26] 標準語。  
 38) [p.27] masubi (約束・固め)、musuba は目的格。  
 39) [p.27] [iddzuimo]  
 40) [p.27] magoija—, maolja—のどれかであるべきだが、あやまって—goi—と—oi—とが重なる。  
 41) [p.27] juino; kin の言いまちがい。  
 42) [p.27] 標準語。  
 43) [p.28] kijaqtaga (来られたよ)でなければ戻だ。  
 44) [p.29] 言いさし。  
 45) [p.29] 「のしやり申すまい」の義。「のす」は「燃える」意。  
 46) [p.30] obaqsaN のようにきこえるが。

- 47) [p.30] 「近しくなって」の意。  
 48) [p.31] 言いさし。  
 49) [p.33] imadoñnota : とありたい。  
 50) [p.33] rjo:ri> dgu:ri> dgui> dzui (料理)。前に標準語形が出たので、方言に直して発音したところ。  
 51) [p.34] 意味なし。  
 52) [p.34] 「出かける」意の敬語。「罷る」に「申す」のついた形。  
 53) [p.34] —tai はやや異なる。  
 54) [p.34] uq は強意を示す接辞。  
 55) [p.34] このようなばあいは単に念を押す。  
 56) [p.35] 「落ち着きやり申しつらう」の義。  
 57) [p.35] 「申し上げ申す」の義。  
 58) [p.36] 「稿」にカ語尾をつけた形。おそろしい。すごいなどの意から、副詞として大変、実にも用いるが、ここでは感動詞的。  
 59) [p.36] 棒で荒目に あんだ袋で、野菜・芋類を入れる。  
 60) [p.37] 言いさし。  
 61) [p.37] 地名。  
 62) [p.37] moi は「あたり・辺」の意。  
 63) [p.40] soi doñkaran がそうきこえるのだろう。  
 64) [p.40] kozuq (杵でつき砕く)  
 65) [p.41] 「五体」から来ている。  
 66) [p.42] 八百屋の仕入れ先である。  
 67) [p.43] 片袖に隣接する部番号。  
 68) [p.44] 標準語形。  
 69) [p.44] 「うろちろておられない」という言葉を省略している。  
 70) [p.45] ここでは「亮るとしたら」の意。  
 71) [p.46] 「言うて聞かすぞ」の訛り。  
 72) [p.47] 「大変よく売れる」の意。  
 73) [p.48] eqjjañeba が廣南方言としては普通。  
 74) [p.48] 「一生」から来た語。  
 75) [p.48] 枕崎の御間屋の名。  
 76) [p.48] 「言うて聞かせやった」の訛り。  
 77) [p.49] anotowa > anta  
 78) [p.50] 言いまちがい。

- 79) [p.51] 言いましがいい。
- 80) [p.51] 敬意を含む主格助詞。
- 81) [p.51] 敬意を含む主格助詞。
- 82) [p.51] 「下さらない」の意味でいう。
- 83) [p.52] niziŋbaとありたい。
- 84) [p.52] mon zja はたしかな根拠があるのでの推定表現。
- 85) [p.53] 意味なし。
- 86) [p.53] 「御覧なさい」が原義。
- 87) [p.55] 言いましがいい。
- 88) [p.55] 「高くない」という心持。
- 89) [p.56] 言いましがいい。
- 90) [p.56] 対話をまだ続行するのかと云ったところ。
- 91) [p.56] 標準語。
- 92) [p.56] あとに「仮えよう」の意が続くべきところ。
- 93) [p.57] 「打ちかかれば」の義。
- 94) [p.57] —do: は—teの降音化。前に標準語形が出たので、意識的に方言の訛形に言い直した。「下りもの」は鹿児島方面からくだった来た品をいう。
- 95) [p.57] 標準語。
- 96) [p.59] 男女対話が重なる。
- 97) [p.60] ni jaq (あり なさる) がスムーズに出ないで、とぎれた形になったもの。なお「元氣元気アア」という形をよるこぶ。genkiの中に助詞「ニ」はとけ込んでいる。
- 98) [p.60] 古語「むかはり月」の訛り。
- 99) [p.61] 「おじいさんと言われたい」が言外の意味。
- 100) [p.61] 標準語。
- 101) [p.61] 「きり焼くやら」の義。最初のkiqは擬動詞。
- 102) [p.61] 「おきなない」からの音韻変化・意味変化。
- 103) [p.61] このようなばあいの「又」は単に念を押す意。
- 104) [p.61] ejutadeciの訛り。「と言ったからとて」の意。
- 105) [p.61] お金のこと。
- 106) [p.61] お金のこと。
- 107) [p.62] どうしても「手紙を呉れない」の意。
- 108) [p.62] kazumoとありたい。
- 109) [p.62] uzekeŋno又はuzekeŋnoとありたい。
- 110) [p.62] 「迷態だが」くらしい心持。
- 111) [p.63] 言いましがいい。

- 112) [p.64] kaは言いさし。
- 113) [p.64] 「来は成りはし申さんやらう」の義。
- 114) [p.64] 「孫ができるのがすくだ」の意。
- 115) [p.64] ejoqは失敗しときの叫び。sima(しまう)の名詞形simeと一緒に、語のように使う。
- 116) [p.67] ju:を尊敬体で言い直した。
- 117) [p.67] kamiwaとありたい。
- 118) [p.67] ( )は下の文意と結びつかない。語手はsohとかsoŋma:とかjaga:iとかをしきりに挿入するので、訳をつけられない方がよいことが多い。
- 119) [p.67] gaは言いましがいい。
- 120) [p.68] いくぶん(0a)にきこえる。
- 121) [p.69] 弱い促音。
- 122) [p.69] 言いどろ。無意味なことばが続く。
- 123) [p.70] 意味なし。
- 124) [p.70] —no—は言いましがいい。
- 125) [p.70] 突撃を予想したらしい。
- 126) [p.70] 意味なし。
- 127) [p.70] 意味なし。
- 128) [p.70] 言いさし。
- 129) [p.70] —gaは前の—moの言い直し。
- 130) [p.71] —cが添ったもの。
- 131) [p.72] 意味なし。
- 132) [p.72] 「感動する」の意。
- 133) [p.73] 魚群が密でない。
- 134) [p.74] 言いさし。
- 135) [p.74] これは次の話と重なる。
- 136) [p.74] 「は」と意識してよい。
- 137) [p.75] cjuの濁音化。
- 138) [p.75] —so—がいくぶん濁る。
- 139) [p.75] 「泊める場所」の意。
- 140) [p.76] ba:iは網を張ること。
- 141) [p.76] 大隅半島の地名。
- 142) [p.76] 片浦から近距離の大浦島のこと。
- 143) [p.77] 魚群する。

- 144) [p.77] 歌在している曲。  
 145) [p.77] 生簀の中に入れた雑魚は半分以上も死ぬので、それを気遣っての問いである。  
 146) [p.77] 雑魚が鰹の餌に適した大きさをいう。  
 147) [p.77] 「生簀籠の8分目」の意。  
 148) [p.78] 言いさし。  
 149) [p.79] 「寝れるかも知れない」ということばが続くところ。  
 150) [p.79] 言いまわがぬい。  
 151) [p.79] 鰹があってこそ産売は成り立つということ。  
 152) [p.79] 他の魚がまざること。鰹の小さい「たれくち」雑魚が鰹の餌に最もよいが、他の雑魚がまざると不適当なので、心配しての問い。  
 153) [p.79] nanzi ja nanzi ja きこえる。  
 154) [p.81] ここでは仮定の意味でなく既然の意味。  
 155) [p.81] は対照重なる。  
 157) [p.81] goq は「御糺」の糺を略した形か。  
 158) [p.82] 生簀のための籠。

非 売 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区福村西山町

